

〔共同研究：芥川龍之介の読書書誌〕

書誌

## 芥川龍之介終焉期の読書：1927年の芥川龍之介の読書遍歴

——迫り来る時代の不安に耐えかねて——

志	保	田	務*
赤	瀬	雅	子**
山	田	忠	彦***

日本文学史における「大正」の終焉が芥川龍之介の自殺に象徴されるとはよくいわれることである。芥川は周知のように、昭和2年7月24日早朝「ぼんやりとした不安」のために、自宅で服毒自殺した。この自殺に関して、具体的な原因が探られて来た。創作に行き詰まっていたというのが文学上の理由であろう。そのほか「近代日本文藝讀本」（大正14年11月）の編纂に携わり、この叢書（五巻物）に作品を収録した先輩作家との間に生じた軋轢が、彼を死に追いやった一契機であるとする菊池寛の言説も有力である（「芥川のことども」『文藝春秋』昭和2年9月芥川龍之介追悼号）。実際には、多くの内臓の疾患と神経の疲弊を含む総合的な肉体的衰えが、自殺という極端な手段を彼に選ばせたのであろう。だが、上記の、来るべき時代への不安が書き手としての彼を死に誘った最大の原因であると思われる。

それは「二十歳にして既に朽ちたり」と自己を語った中唐の詩人で、鬼才といわれた李賀（長吉）を好み、フランス詩史の中で燦然と輝く19世紀末のサンボリスト、シャルル・ボードレールを愛して「人生は一行のボードレールにも如かず」と述べた芥川の敗北を意味しているのであろうか。

かつては気鋭の文学者としても活躍した宮本顯治は、1929年、『改造』の懸賞論文に芥川龍之介を論じた「敗北の文学」を投じ一位を獲得

した。宮本の立場からすれば、芥川の文学はプロレタリア文学の幕開けを告げる、若々しく圧倒的な力を持った新しい文学の前に、脆くも敗れさったとみるのは当然であり、その論旨は明快である。

また女流作家の中で、抜きんでた思想性を持っていた岡本かの子は、その文名を高めた「鶴は病みき」（昭和13年）において、芥川の痛ましい憔悴した姿を描いている。かの子も作家としての真の開花期を前に病死してしまったが、それでも、芥川がその時代の入り口で躊躇した昭和という時代を彼女は14年目まで生きた。しかもいわゆるプロレタリア文学の流行をもものもせず、芸術と宗教の至上性を謳い、華やかな作風を顕著にみせた。

芥川もプロレタリア文学の台頭に超然と対抗して生き続けることがきたはずであると鞭打つことはできる。確かに芥川の知的資質は、読書によって人生を識ること、すなわちテキストがテキストを生むというところで限りない輝きを示していた。従って、研究的、高踏的な立場を最も採りえた作家ではなかったとさえ考えさせられる。しかしそうした作家としての生き方が真に市民権を得るようになったのは、せいぜい二十世紀後半の今の時代である。芥川がもしこの時代に生きていたならば、豊饒の成果をあげたであろうと想像するに難くない。

1892年（明治25年3月1日）に生まれ知的に早熟だった芥川龍之介の読書歴は十代のうちにすでに膨大な量を記録している。芥川の読書力

\*本学文学部

\*\*本学文学部

\*\*\*京都大学経済学部図書室

はすさまじく、彼の晩年につきあった医師の下島勲は「芥川君と読書の速度」との一文で、“普通の英文學書なら一日一千二、三百頁は楽だといってゐた”と記している（昭和9年11月21日「芥川龍之介全集」月報）。この、彼の生涯にわたる読書について私どもは書誌を作成し、一応の成稿を得た。ただその全記録は余りにも大きく、表現するには多くの紙数を要する。後にも記すとおり、私どもは、この研究に関して本紀要への投稿の義務を負っているが、一つの号に集中、掲載していただくには、大部に過ぎるものとなった。そこで、芥川終焉の年1926年のものに限って掲載する。これは、彼の読書記録の片鱗、永山の一角を提示したに過ぎない。それでも以下に見られるように大部である。

死に直面していた時期の芥川は、時代の新興勢力、プロレタリア文学と白樺派の作品を多く読んでいたようである。これらの読書をおし彼は小説作法（方法論）を考えていたと思われる。こうした状況の下で、谷崎潤一郎（「饒舌録」昭和2年2月～12月『改造』）との、激しい論争が生まれた（「文藝的な余りに文藝的な」昭和2年4月～『改造』及び『文藝春秋』）。ここにおいて芥川は「あらゆる小説中『最も詩に近い小説』を理想とする」とした。当時の彼の興味が詩（的なもの）に向かっていたことがわかる。それは、第一に遺稿『侏儒の言葉』（文藝春秋社 昭和2年12月刊）の上に現れている。芥川が最後に親しんだ詩人は萩原朔太郎である。だが、若い時代は北原白秋（柳川出身）に傾倒し「柳川隆之介」との筆名を用いた。芥川は白秋から更に木下杢太郎を経由してキリスト教、特にカトリックを作品対象とするに至ったのであった。その小説技法への賛美と内容に対する幾分の批判におおわれた「南京の基督」（『中央公論』大正9年7月）は少なくとも題材の一面でキリストの救いを扱っていた（昨年、レオン・カーフェイと富田靖子の主演で映画化された）。またその最晩年の作品である「西方の人」「続西方の人」（『改造』昭和2年8月、9月号所載）を見るだけでも芥川龍之介のキリストへの意識・関心は十分に見ることができよう。芥川

がその死出の枕辺に『旧新約聖書 Holy Bible』（米国聖書協会1916）を置いていたことはよく知られていることではある。芥川の自殺に関し、我々は“迫り来る時代の不安に耐えかねて”と把握する。だが、都留文科大学の関口安義教授は、芥川龍之介を、敗北者ではなく「人間存在にまつわる原罪を知っていた作家であった」という。

なお最近の比較文学的研究から、芥川が真の読書人であったことの一部を述べよう。

柏木隆夫大阪大学教授によれば、芥川の机上には常に英書があり、フランスの文学作品も英訳で読んでいた。しかしいざ引用をするという時には必ず原典に当たる姿勢があったので、その引用は同時代の文学者の中で最も信用できるという結論を、芥川が影響を受けたジュール・ルナールに例を取って実証された。

## 凡 例

### I. 採録典拠

芥川龍之介全集 / 吉田精一〔ほか〕編・岩波書店、1977—1978。全12巻。

芥川龍之介未定稿集 / 葛巻義敏編。岩波書店、1968。全1巻。

ただし次の二つの全集を注記において参照した。

芥川龍之介全集 / 中村眞一郎〔ほか〕編。岩波書店、1954—1955。本体19巻。案内1巻。

芥川龍之介全集 / 吉田精一編。筑摩書房、1958。本体8巻、別巻（研究）1巻。

### II. 採録対象

典拠の小説・随筆・日記・書簡・手帳等に所載の、芥川自身以外による作品。著作の実際を示唆しているものは著者名のみでも採録した。但し下記の類は採録しない。

ア) 今昔物語・宇治拾遺物語・聖書等、芥川が作品の骨格にしている場合のその古典類。

イ) 詩歌・俳句等で断片または作者不詳のもの。

- ウ) 著者との関係次元以外で登場した作家名等。
- エ) 主に手帳に記されたタイトル風のものの。著作としての実在が確認できなかったもの。
- オ) 項目全体が典拠の同一ページに前出する項目と完全に一致する記事。

### III. 読書年表

この読書年表は読書対象についてすべての所出箇所を情報源とし、項目化した。

#### ア) 項目の構成事項と表示表

##### 1. 項目の構成事項

各項目は、下記の事項によって構成され、事項はここに示す順序で記録されている。

##### .1 項目番号（整理番号）

各項目に、この記録の同一ページ上の序数を番号として記した。整理番号である。

##### .2 年月日

日記・書簡に所出の場合は芥川による日付。これがない手紙は消印の日付による。

その他では芥川作品の初出の期日。ただし脱稿の日付ある場合は脱稿日付で記録した。

典拠が推定して与えた年月日には「？」と付した。不詳の場合は「不」とした。

##### .3 読書物の著者名

姓名の判明しているものは姓名を記した。西洋人名は転置し、名はイニシアルのみとした。

##### .4 読書物の著作名

著作名を記した。ただし、引用符「 ” 」で包んだものは世に常用の著作名ではなく芥川龍之介の表現をそのままかりた書誌的事項である。

##### .5 典拠に関する記録

###### ①典拠の巻頁

典拠の全集での所出の巻、頁を

記録した。

未定稿集の場合は全集巻数に当たるところに「未稿」と表示した。

###### ②典拠の目次タイトル

##### 2. 表示法

転写。著者名、著作名を代表に、芥川の作品で用いられて表現をそのままに使用することを大原則とした。ゆえに、旧漢字の使用が多くなっている。なお、「[ ]」（角がっこ）で包んだ記事は当方で補った「補記」である。これについては現代漢字の使用を原則としている。

##### イ) 配列順序

1. 年月日順 年月日のいずれかが不明の場合は各々の明かなものより先に配列した。
2. 著者名順 同一年月日の下では和洋に分け和、洋の順とし、和表現は五十音順に、洋表現は ABC 順に配列した。また著者不詳はすべての著者の先に配列した。
3. 著作名順 同一著作の下で五十音順に配列した。代用の書誌事項も著作名と扱った。

### IV. 注記

各項目に対する注、を見開きの向かいのページにつけた。芥川の記事から採った注は、引用符「 “ ” 」で包んで記録した。

## 芥川龍之介の読書(書誌・年表)

年・月・日	読書物	(著者・著作名)	全集巻頁	目次タイトル
昭和2年				
01) 2.	[園梧・雪竇]	碧巖録	12: 313	[文藝的な餘りに文藝的な] 「大道無門」
02) 2.	[岡谷繁実]	名将言行録	12: 326	題未定
03) 2.	里見弴	大道無門	12: 313	[文藝的な餘りに文藝的な] 「大道無門」
04) 2.	里見弴	多情仏心	12: 313	[文藝的な餘りに文藝的な] 「大道無門」
05) 2.頃?	佐藤春夫	田園の憂鬱	未稿60	彼女(断片)
06) 2.頃?	[志賀直哉]	“Sさんの自叙傳的小説”	未稿55	Sさん, T君(断片)
07) 2.頃?	武者小路實篤	養父	未稿60	彼女(断片)
08) 2. 1.	國木田獨步	電報	8: 144	追憶(日本海々戦)
09) 2. 1.	中里介山	大菩薩峠	8: 145	追憶(西川英次郎)
10) 2. 1.	[ドーデ, A.]	サツフォオ	8: 145	追憶(西川英次郎)
11) 2. 1.	[ドフトエフスキー, F.M.]	“ソオニア”	9: 374	露譯短篇集の序
12) 2. 1.	Flaubert, [G.]		9: 374	露譯短篇集の序
13) 2. 1.	Liebknecht, [W.]	“Liebknecht の追憶録”英譯本	8: 257	玄鶴山房
14) 2. 1.	[トルストイ, L.N.]	“ナタアシア”	9: 374	露譯短篇集の序
15) 2. 1.	[ツルゲーネフ, I.S.]	獵人日記	8: 145	追憶(西川英次郎)
16) 2. 1.	Whitman, W.		9: 374	露譯短篇集の序
17) 2. 1. 1		萬葉集	8: 271	文藝雜談
18) 2. 1. 1	葛西善藏	“私小説”	8: 272	文藝雜談
19) 2. 1. 1	北原白秋		8: 276	文藝雜談
20) 2. 1. 1	木下杢太郎		8: 276	文藝雜談
21) 2. 1. 1	久米正雄	“チェホフのこと…”	8: 274	文藝雜談
22) 2. 1. 1	久米正雄	萬年大學生	8: 273	文藝雜談
23) 2. 1. 1	齋藤茂吉	赤光	8: 276	文藝雜談
24) 2. 1. 1	佐藤春夫	琴唄	8: 278	萩原朔太郎君
25) 2. 1. 1	佐藤春夫	秋刀魚の歌	8: 278	萩原朔太郎君
26) 2. 1. 1	瀧井孝作	“私小説”	8: 273	文藝雜談

注) 以下, 注は左頁(見開き)の書誌年表の項目番号と対応している。

- 01) 雪竇禅師は重顯。禅師は圓悟克勤。碧巖録は仏書10巻。
- 02) 岡谷繁実(1835-1919)編。伝記, 40巻。明治2年刊行, 明治28年再版。北条長氏より土屋政直に至る武将178人の言行を収録。
- 03) 里見弴(1888-1983)。『婦人公論』(大正15年1~12月)連載。
- 04) 『時事新報』(大正11年12月~12年12月)連載。
- 05) 佐藤春夫(1892-1964)。新潮社(大正8年6月)刊行。
- 06) 志賀直哉(1883-1971)。「和解」(大正6年10月)か。「暗夜行路」(大正4年-昭和12月9月)の可能性もあり。ただし特定できず。
- 07) 武者小路實篤(1885-1976)。『白樺』(大正2年8月)所載。
- 08) 國木田獨歩(1871-1908)。獨歩には「電報」という作品はない。「号外」(明治39年8月)の誤りか?
- 09) 中里介山(1885-1944)。『都新聞』(大正2年9月12日)より数紙(誌)に連載。未完。
- 10) Alphonse Daudet (1840-1897 フランス)。“英譯で中學の4年か5年の時に読み囃った”。
- 11) Fëdor M. Dostoevskii (1821-1881 ロシア)の「罪と罰」の主要人物のひとり。
- 12) Gustave Flaubert (1821-1880 フランス)。Flaubert の作品を評して“正確にブルジョアの生活を寫す”としている。
- 13) Wilhelm Liebknecht (1826-1900 ドイツ)は社会主義者。
- 14) Lev H. Tolstoi (1828-1910 ロシア)の「戦争と平和」の主要人物のひとり。
- 15) Ivan. S. Turgenev (1818-1883 ロシア)。“英譯で中學の4年か5年の時に読み囃った”。
- 16) Walt Whitman (1819-1892 アメリカ)。作品名は特定出来ず。
- 17) 「文藝雑談」は『文藝春秋』(大正16年1月1日)所載。雑誌は大正15年~11月~12月に発行されているので, その時の奥付は大正16年1月1日となっている(正しくは昭和2年1月1日)。
- 18) 葛西善蔵(1887-1928)。作品名特定出来ず。
- 19) 北原白秋(1885-1942)。“キリシタンの徒に詩的感情を寄せた”。
- 20) 木下杢太郎(1885-1945)。“キリシタンの徒に詩的感情を寄せた”。
- 21) 久米正雄(1891-1952)。『演劇新潮』(大正13年7月)所載の「チャーホフ小論」のこと。
- 22) 『改造』(大正15年11月)所載。“僕は近頃中野〔重治〕氏が久米正雄の「萬年大學生」に對し, 萬年小僧よと云って居る詩を讀んだ”。
- 23) 齋藤茂吉(1882-1953)の処女歌集。東雲堂(大正2年10月)刊行。
- 24) 佐藤春夫(前出)。第1詩集「殉情詩集」(大正10年7月刊行)に収められている。
- 25) 『人間』(大正10年11月)所載。
- 26) 瀧井孝作(1894-1984)。作品名は特定出来ず。

## 昭和2年

01)	2.	1.	1	徳富蘆花		8 : 276	文藝雑談
02)	2.	1.	1	中野重治	[郷土望景詩に現 れた憤怒について]	8 : 277	萩原朔太郎君
03)	2.	1.	1	中野重治	“詩”	8 : 273	文藝雑談
04)	2.	1.	1	萩原朔太郎	青猫	8 : 277	萩原朔太郎君
05)	2.	1.	1	萩原朔太郎	新らしき欲情	8 : 278	萩原朔太郎君
06)	2.	1.	1	萩原朔太郎	純情詩集	8 : 277	萩原朔太郎君
07)	2.	1.	1	萩原朔太郎	月に吠える	8 : 277	萩原朔太郎君
08)	2.	1.	1	堀辰雄		8 : 277	萩原朔太郎君
09)	2.	1.	1	正宗白鳥	“正宗白鳥氏の 「時評」”	8 : 272	文藝雑談
10)	2.	1.	1	[紫式部]	源氏物語	8 : 271	文藝雑談
11)	2.	1.	1	室生 [犀星]	抒情小曲集	8 : 279	萩原朔太郎君
12)	2.	1.	1	室生犀星	忘春詩集	8 : 279	萩原朔太郎君
13)	2.	1.	1	[森島中良編]	紅毛雑話	8 : 276	文藝雑談
14)	2.	1.	1	山村暮鳥	聖三稜玻璃	8 : 280	萩原朔太郎君
15)	2.	1.	1	アンドレエフ, [L. N.]	イスカリオテのユ ダ	8 : 275	文藝雑談
16)	2.	1.	1	ボオウズウエル, [J.]		8 : 275	文藝雑談
17)	2.	1.	1	ヘンダアソン, [A.]		8 : 275	文藝雑談
18)	2.	1.	1	パピニ, [G.]	クリスト傳	8 : 275	文藝雑談
19)	2.	1.	1	ショウ, G. B.	バック・トウ・メ スウズラ	8 : 274	文藝雑談
20)	2.	1.	1	ショウ, G. B.	カンデイダ	8 : 274	文藝雑談
21)	2.	1.	1	ショウ, G. B.	ハート・ブレック ・ハウス	8 : 274	文藝雑談
22)	2.	1.	1	ショウ, G. B.	セント・ジョン	8 : 274	文藝雑談
23)	2.	1.	1	[ビヨン, A.]	鮮血遺書	8 : 276	文藝雑談
24)	2.	2.	1	久保田万太郎	大寺學校	12 : 659	新潮合評會 (八)
25)	2.	2.	1	[久保田万太郎]	“作品”	12 : 661	新潮合評會 (八)
26)	2.	2.	1	久保田万太郎	夜鴉	12 : 659	新潮合評會 (八)
27)	2.	2.	1	里見弴	私は見た	12 : 648	新潮合評會 (八)
28)	2.	2.	1	志賀直哉	あはれな男	12 : 656	新潮合評會 (八)
29)	2.	2.	1	志賀直哉	暗夜行路	12 : 655	新潮合評會 (八)

注)

- 01) 徳富蘆花 (1868-1927)。“明治の基督教文學といふものには殆ど親しんだことがない(徳富蘆花氏の作品は例外だ)”。
- 02) 中野重治 (1902-1979)。『驢馬』(大正15年10月)所載。“朔太郎君の「純情詩集」のことは「驢馬」の何号かに中野重治君も論じ”と芥川は記す。「純情詩集」は「純情小曲集」のことか?
- 03) 『驢馬』(大正15年4月創刊)に多数の詩を発表している。
- 04) 萩原朔太郎 (1886-1942)。新潮社(大正12年1月)刊行の詩集。
- 05) アルス(大正11年4月)刊行の論文集。
- 06) 「純情小曲集」が正しい。新潮社(大正14年8月)刊行。
- 07) 感情詩社(大正6年2月)刊行の詩集。
- 08) 堀辰雄 (1904-1953)。
- 09) 正宗白鳥 (1879-1962)。大正15年5月から12月まで「文藝時評」を『中央公論』に書いている。
  
- 10) 紫式部(生没年未詳)。
- 11) 室生犀星 (1889-1962)。感情詩社(大正7年9月)刊行の詩集。
- 12) 文京社(大正11年12月)刊行の詩集。
- 13) 森島中良 (1754-1810)。外国地誌, 別名「名勝図絵阿蘭陀紀聞」(大正2年刊行)6巻本。
- 14) 山村暮鳥 (1884-1924)。にんぎょ詩社(大正4年12月)刊行の詩集。
- 15) Leonid N. Andreev (1871-1919 ロシア)。小説(1907)。
  
- 16) James Boswell (1740-1795 スコットランド)は弁護士。Samuel Johnson (1709-1784)の伝記作者。「The Life of Samuel」(1791)。
- 17) Archibald Henderson (1877-1963 アメリカ)。G. B. Shaw の伝記作者。
- 18) Giovanni Papini (1881-1956 イタリア)。「Storia di Cristo」(1921)。
- 19) George B. Shaw (1856-1950 イギリス)。「Back to Methuselah」(1921)。
  
- 20) 「Candida」(1894)。
- 21) 「Heart break House」(1913)。
  
- 22) 「Saint John」(1932)。
- 23) Amatus Villion (1843-1932 フランス)は1867年来日したカトリック宣教師。明治20年刊行, 大正15年再版。キリシタンの迫害と殉教とを記述したもの。
- 24) 久保田万太郎 (1889-1963)。『女性』(昭和2年1, 2, 4, 5月)連載。戯曲4幕。
- 25) 作品名は特定出来ず。
- 26) 『中央公論』(昭和2年1月)所載。
- 27) 里見淳(前出)。『改造』(昭和2年1月)所載。
- 28) 志賀直哉(前出)。『中央公論』(大正8年4月)所載。「隣れな男」が正しい。
- 29) 『改造』(大正10年1月～昭和12年4月)所載。

## 昭和2年

01)	2. 2. 1	志賀直哉	濁った頭	12:656	新潮合評會 (八)
02)	2. 2. 1	[高濱] 虚子	俳諧師	12:658	新潮合評會 (八)
03)	2. 2. 1	谷崎潤一郎	“墓物”	12:654	新潮合評會 (八)
04)	2. 2. 1	谷崎 [潤一郎]	麒麟	12:654	新潮合評會 (八)
05)	2. 2. 1	谷崎潤一郎	九月一日前後のこ と	12:652	新潮合評會 (八)
06)	2. 2. 1	谷崎潤一郎	日本に於けるクリ ップン事件	12:652	新潮合評會 (八)
07)	2. 2. 1	近松秋江	舊痕	12:657	新潮合評會 (八)
08)	2. 2. 1	近松秋江	無明	12:657	新潮合評會 (八)
09)	2. 2. 1	[広津柳浪]	雨	12:647	新潮合評會 (八)
10)	2. 2. 1	牧野信一	F村での春	12:661	新潮合評會 (八)
11)	2. 2. 1	室生犀星	木枯	12:659	新潮合評會 (八)
12)	2. 2. 1	室生犀星	冬の蝶	12:659	新潮合評會 (八)
13)	2. 2. 1	横光利一	計算した女	12:661	新潮合評會 (八)
14)	2. 2. 1	ゴオチェ, [T.]	“詩人”	12:655	新潮合評會 (八)
15)	2. 2. 1	ホイットマン, W.		12:657	新潮合評會 (八)
16)	2. 2. 2	[スウィフト, J.]	グァリヴァの旅行 記	11:497	書簡 (齋藤茂吉宛)
17)	2. 2. 3	東海林辰三郎	支那仙人列傳	11:497	書簡 (河西信三宛)
18)	2. 2. 3	[鄭環古]	杜子春傳	11:497	書簡 (河西信三宛)
19)	2. 2. 5	ルナール, [J.]		8:286	僕は
20)	2. 2.11	堀 [辰雄]	“小説”	11:500	書簡 (佐佐木茂索宛)
21)	2. 2.15	谷崎潤一郎	“谷崎潤一郎君の 駁論”	11:501	書簡 (小穴隆一宛)
22)	2. 2.17	[大熊信行]	“高著”	11:502	書簡 (大熊信行宛)
23)	2. 2.17	藤森成吉	馬の足	8:293	藤森君の「馬の足」のことを 話せと言ふから
24)	2. 2.17	モリス, [W.]	Love is Erough	11:502	書簡 (大熊信行宛)
25)	2. 2.21	アルント, [E.M.]	アルントの詩集	8:292	その頃の赤門生活
26)	2. 2.23	[赤井三郎]	“玉稿”	11:503	書簡 (赤井三郎宛)
27)	2. 2.26	[会津八一]	南京新唱	11:503	書簡 (赤井三郎宛)



注)

- 01) 『白樺』(明治44年4月)所載。
- 02) 高濱虚子(1874-1958)。『國民新聞』(明治41年2月18日～7月28日)連載。
- 03) 谷崎潤一郎(1886-1965)。「羹(あつもの)」のこと。『東京日日新聞』(明治45年7月20日～大正元年11月19日)連載。
- 04) 第2次『新思潮』(明治43年12月)所載。
- 05) 『改造』(昭和2年1月)所載。
  
- 06) 『文藝春秋』(昭和2年1月)所載。
  
- 07) 近松秋江(1876-1944)。『中央公論』(大正15年12月)所載。
- 08) 『中央公論』(昭和2年1月)所載。
- 09) 広津柳浪(1861-1928)。『新小説』(明治35年10月)所載の短編小説。
- 10) 牧野信一(1896-1936)。『女性』(昭和2年1月)所載。
- 11) 室生犀星(前出)。『新潮』(昭和2年1月)所載。
- 12) 『不同調』(昭和2年1月)所載。
- 13) 横光利一(1898-1947)。『新潮』(昭和2年1月)所載。
- 14) Theophile Gautier (1811-1872 フランス)。“詩人のゴオチェは偉いかも知れない。小説家のゴオチェは知れたものだ。”
- 15) W. Whitman (前出)。
- 16) Jonathan Swift (1667-1745 イギリス)。「Gulliver's Travels」(1726)。
  
- 17) 東海林辰三郎については不詳。
- 18) 鄭環古。唐代の人。
- 19) Jules Renard (1864-1910 フランス)。
- 20) 堀辰雄(1904-1953)。『山繭』(昭和2年3月)所載の「ルウベンスの偽畫」(初稿)か?
- 21) 谷崎潤一郎(前出)。谷崎と芥川とで『改造』(昭和2年4月～7月)で、「文藝的な餘りに文藝的な」の題で文学論争を起こした。
- 22) 大熊信行(1893-1977)は評論家・歌人。著書名確定出来ず。
- 23) 藤森成吉(1892-1977)。『文藝時報』(昭和2年)に掲載との説もあるが未見。
  
- 24) William Morris (1834-1896 イギリス)。
- 25) Ernst Moritz Arndt (1766-1860 ドイツ)。4冊。「時代の精神」(1806-1818)のことか?
- 26) 赤井三郎については不詳。
- 27) 会津八一(1881-1956)。春陽堂(大正13年12月)刊行の第一歌集。

## 昭和2年

01)	2. 3. 1	國木田獨歩		8 : 375	河童
02)	2. 3. 1	[古賀煜]	水虎考略	8 : 313	河童
03)	2. 3. 1	白柳秀湖	“小品”	8 : 388	少時からの愛讀輻
04)	2. 3. 1	森 [鷗外]	即興詩人	11 : 504	書簡 (葛巻義敏宛)
05)	2. 3. 1	柳田國男	山島民譚集	8 : 332	河童
06)	2. 3. 1	アンドレエフ, [L. N.]		8 : 375	芝居漫談
07)	2. 3. 1	ゲエテ, [J. W. von]	ミニヨンの歌	8 : 350	河童
08)	2. 3. 1	イブセン, [H.]		8 : 375	芝居漫談
09)	2. 3. 1	メエテルリンク, [M.]		8 : 375	芝居漫談
10)	2. 3. 1	ニイチェ, [F. W.]		8 : 356	河童
11)	2. 3. 1	ルナアル, [J.]	葡萄畑の葡萄作り	8 : 374	芝居漫談
12)	2. 3. 1	ストリントベリイ	傳説	8 : 356	河童
13)	2. 3. 1	トルストイ, [L. N.]		8 : 356	河童
14)	2. 3. 2	岡 [麓]	庭苔	11 : 505	書簡 (齋藤茂吉宛)
15)	2. 3. 6		“新潮”の合評會 の記事”	11 : 505	書簡 (青野季吉宛)
16)	2. 3. 6	チェホフ, [A. P.]	櫻の園	11 : 505	書簡 (青野季吉宛)
17)	2. 3. 6	リイプクネヒト, [W.]	追憶録	11 : 505	書簡 (青野季吉宛)
18)	2. 3. 6	Segur, [N.]	アナトオル・フラ ンスとの對話	11 : 506	書簡 (青野季吉宛)
19)	2. 3. 28	和田久太郎	“獄中記”	11 : 507	書簡 (齋藤茂吉宛)
20)	2. 4. 1		金瓶梅	9 : 8	文藝的な餘りに文藝的な (二)谷崎潤一郎氏に答ふ
21)	2. 4. 1	青木健作		9 : 22	文藝的な餘りに文藝的な (十一, 半ば忘れられた作 家たち)
22)	2. 4. 1	石川啄木	悲しき玩具	9 : 18	文藝的な餘りに文藝的な (八, 詩歌)
23)	2. 4. 1	泉鏡花		9 : 7	文藝的な餘りに文藝的な(二)
24)	2. 4. 1	[井原] 西鶴	大下馬	9 : 14	文藝的な餘りに文藝的な (五, 志賀直哉氏)
25)	2. 4. 1	[井原] 西鶴	子供地藏	9 : 14	文藝的な餘りに文藝的な(五)
26)	2. 4. 1	宇野浩二		9 : 8	文藝的な餘りに文藝的な(二)
27)	2. 4. 1	宇野浩二	“散文”	9 : 15	文藝的な餘りに文藝的な (六, 僕等の散文)
28)	2. 4. 1	浦川和三郎	日本に於ける公教 會の復活	8 : 419	誘惑

注)

- 01) 國木田獨歩（前出）。
- 02) 古賀焯（1788-1874）。文政3年（1820）刊行。水虎（かっぱ）の事を考証図解したもの。
- 03) 白柳秀湖（1884-1950）。“少時小品を愛讀した。”
- 04) Hans C. Andersen（1805-1875 デンマーク）原作，森鷗外の翻案。春陽堂（明治35年9月）刊行。
- 05) 柳田國男。寅叢書刊行所（大正3年7月）刊行。河童の伝承を考証したもの。
- 06) L. N. Andreev（前出）。
- 07) Johann W. von Goethe（1749-1832 ドイツ）。Mignon（薄命の美少女の名）を題する詩は何篇かある。
- 08) Henrik Ibsen（1828-1906 ノルウェー）。
- 09) Maurice Maeterlinck（1862-1949 ベルギー）。
- 10) Friedrich M. Nietzsche（1844-1900 ドイツ）。“ツアラトストラの詩人ニイチエ”と記している。
- 11) Jules Renard（1864-1910 フランス）。「Le vigneron dans sa vigne」（1894）。岸田國士（1890-1954）訳。
- 12) Johan A. Strindberg（1849-1912 スウェーデン）。「Legender」（1898）。自伝的小説。
- 13) L. N. Tolstoi（前出）。
- 14) 岡麗（1877-1951）。古今書院（大正15年10月）刊行の第一歌集。
- 15) 『新潮』（昭和2年3月）で芥川の「玄鶴山房」が批評されている。
  
- 16) Anton P. Chekhov（1860-1904 ロシア）。
- 17) Wilhelm Liebknecht（1826-1900 ドイツ）は社会主義者。
- 18) Nicolas Segur（1873-1944 はフランス）は文学研究者。
  
- 19) 和田久太郎（1893-1928）無政府主義者。労働運動社（昭和2年3月）刊行の「獄窓から」のこと。
- 20) 中国明代の長編小説。目次タイトルは以下、「文藝的な餘りに文藝的な(二)」と略す。
  
- 21) 青木健作（1883-1964）。「若き教師の悩み」（大正8年）がある。目次タイトルは以下、「文藝的な餘りに文藝的な（十一）」と略す。
  
- 22) 石川啄木（1886-1912）。第2歌集。東雲堂（明治45年6月）刊行。目次タイトルは以下、「文藝的な餘りに文藝的な（八）」と略す。
- 23) 泉鏡花（1873-1939）。
- 24) 井原西鶴（1642-1693）。「西鶴諸國咄」（貞享2年）の中的一篇「近年諸國咄大下馬」の略。目次タイトルは以下、「文藝的な餘りに文藝的な（五）」と略す。
- 25) 「西鶴諸國咄」の中的一篇。
- 26) 宇野浩二（1891-1961）。
- 27) 作品名は特定出来ず。目次タイトルは以下、「文藝的な餘りに文藝的な(六)」と略す。
  
- 28) 浦川和三郎（1876-1955）はカトリック教会司教。長崎天主堂（大正4年）刊行。

昭和2年			
01)	2. 4. 1	江南文三	9:22 文藝的な餘りに文藝的な (十一)
02)	2. 4. 1	岡麗 庭苔	8:438 「庭苔」讀後
03)	2. 4. 1	菊池寛	9:8 文藝的な餘りに文藝的な(二)
04)	2. 4. 1	北原白秋 思ひ出	9:16 文藝的な餘りに文藝的な(六)
05)	2. 4. 1	木下杢太郎 “散文”	9:16 文藝的な餘りに文藝的な(六)
06)	2. 4. 1	陸羯南 “新聞文藝”	9:33 文藝的な餘りに文藝的な (二十, ジャアナリズム)
07)	2. 4. 1	久米正雄	9:7 文藝的な餘りに文藝的な(二)
08)	2. 4. 1	久米正雄	9:19 文藝的な餘りに文藝的な (九, 兩大家の作品)
09)	2. 4. 1	黒岩涙香 “新聞文藝”	9:33 文藝的な餘りに文藝的な (二十)
10)	2. 4. 1	[呉承恩] 西遊記	9:8 文藝的な餘りに文藝的な(二)
11)	2. 4. 1	俳諧寺一茶	9:29 文藝的な餘りに文藝的な (十六, 文學的未開地)
12)	2. 4. 1	齋藤茂吉 走光	9:18 文藝的な餘りに文藝的な(八)
13)	2. 4. 1	坂本四方太 “寫生文”	9:16 文藝的な餘りに文藝的な(六)
14)	2. 4. 1	佐藤春夫	9:32 文藝的な餘りに文藝的な (二十)
15)	2. 4. 1	佐藤春夫 “散文”	9:15 文藝的な餘りに文藝的な(六)
16)	2. 4. 1	里見弴	9:7 文藝的な餘りに文藝的な(二)
17)	2. 4. 1	里見弴 “幾篇かの詩”	9:17 文藝的な餘りに文藝的な(六)
18)	2. 4. 1	志賀直哉 憐れな男	9:13 文藝的な餘りに文藝的な(三, 僕)
19)	2. 4. 1	志賀直哉 暗夜行路	9:12 文藝的な餘りに文藝的な(五)
20)	2. 4. 1	志賀直哉 彼と六つ上の女	9:14 文藝的な餘りに文藝的な(五)
21)	2. 4. 1	志賀直哉 鵠沼行	9:12 文藝的な餘りに文藝的な(五)
22)	2. 4. 1	志賀直哉 子を盗む話	9:14 文藝的な餘りに文藝的な(五)
23)	2. 4. 1	志賀直哉 佐々木の場合	9:12 文藝的な餘りに文藝的な(五)
24)	2. 4. 1	志賀直哉 焚火	9:5 文藝的な餘りに文藝的な(一)
25)	2. 4. 1	志賀直哉 焚火	9:13 文藝的な餘りに文藝的な(五)
26)	2. 4. 1	志賀直哉 二十代一面	9:12 文藝的な餘りに文藝的な(五)
27)	2. 4. 1	志賀直哉 范の犯罪	9:14 文藝的な餘りに文藝的な(五)
28)	2. 4. 1	志賀直哉 眞鶴	9:13 文藝的な餘りに文藝的な(五)

注)

- 01) 江南文三 (1887-1946)。
- 02) 岡麓 (前出)。
- 03) 菊池寛 (1888-1948)。
- 04) 北原白秋 (前出)。第2詩集。東雲堂 (明治44年6月) 刊行。
- 05) 木下杢太郎 (前出)。作品名は特定出来ず。
- 06) 陸羯南 (1857-1907) は評論家。目次タイトルは以下, 「文藝的な餘りに文藝的な(二十)」と略す。
- 07) 久米正雄 (前出)。
- 08) 『新潮』 (大正12年7月) の創作合評会での評言。徳田秋聲の世界を「徳田水」と呼んだ。目次タイトルは以下, 「文藝的な餘りに文藝的な (九)」と略す。
- 09) 黒岩涙香 (1862-1920), 本名: 周六。作品名は特定出来ず。
- 10) 中国「四大奇書」の1つ。作者は呉承恩 (1504頃-1582頃) との説が有力。
- 11) 小林一茶 (1763-1827)。俳諧寺一茶は号。目次タイトルは以下, 「文藝的な餘りに文藝的な(十六)」と略す。
- 12) 齋藤茂吉 (前出)。第1歌集。東雲堂 (大正2年10月) 刊行。
- 13) 坂本四方太 (1873-1917)。作品名は特定出来ず。
- 14) 佐藤春夫 (前出)。佐藤が“文章はしゃべるやうに書け”といったとする。
- 15) 作品名は特定出来ず。
- 16) 里見弴 (前出)。
- 17) 作品名は特定出来ず。
- 18) 志賀直哉 (前出)。『中央公論』 (大正8年4月) 所載。目次タイトルは以下「文藝的な餘りに文藝的な(三)」と略す。
- 19) 『改造』 (大正10年1月~昭和12年4月完結) 連載。
- 20) 『白樺』 (明治43年9月) 所載。
- 21) 『文章世界』 (大正6年10月) 所載。
- 22) 『白樺』 (大正3年4月) 所載。「兒を盗む話」が正しい。
- 23) 『黒潮』 (大正6年6月) 所載。
- 24) “「焚火」以下の諸短篇”とある。
- 25) 「山の生活にて」『改造』 (大正9年4月) 所載を改題したもの。
- 26) 『新小説』 (大正12年1月) 所載。
- 27) 『白樺』 (大正2年10月) 所載。
- 28) 『中央公論』 (大正9年9月) 所載。

## 昭和2年

01)	2. 4. 1	[施耐庵]	水滸傳	9:8	文藝的な餘りに文藝的な(二)
02)	2. 4. 1	白柳秀湖	声なきに聴く	9:26	文藝的な餘りに文藝的な (十四, 白柳秀湖氏)
03)	2. 4. 1	[曹霑]	紅樓夢	9:8	文藝的な餘りに文藝的な(二)
04)	2. 4. 1	高田浪吉	“歌”	8:438	「庭苔」讀後
05)	2. 4. 1	高濱虚子	俳諧師	9:16	文藝的な餘りに文藝的な(六)
06)	2. 4. 1	[高山] 樗牛	[無題録]	9:31	文藝的な餘りに文藝的な (十八, メリメエの書簡集)
07)	2. 4. 1	谷崎潤一郎		9:4	文藝的な餘りに文藝的な(一)
08)	2. 4. 1	谷崎潤一郎	愛すればこそ	9:9	文藝的な餘りに文藝的な(二)
09)	2. 4. 1	谷崎潤一郎	麒麟	9:6	文藝的な餘りに文藝的な(一)
10)	2. 4. 1	谷崎潤一郎	クリップン事件	9:8	文藝的な餘りに文藝的な(二)
11)	2. 4. 1	谷崎潤一郎	刺青	9:9	文藝的な餘りに文藝的な(二)
12)	2. 4. 1	谷崎潤一郎	小さい王國	9:8	文藝的な餘りに文藝的な(二)
13)	2. 4. 1	谷崎潤一郎	人魚の歎き	9:8	文藝的な餘りに文藝的な(二)
14)	2. 4. 1	遅塚麗水	“新聞文藝”	9:33	文藝的な餘りに文藝的な (二十)
15)	2. 4. 1	[陳森]	品花宝鑑	9:8	文藝的な餘りに文藝的な(二)
16)	2. 4. 1	徳田秋聲		9:19	文藝的な餘りに文藝的な(九)
17)	2. 4. 1	徳富蘇峰	“新聞文藝”	9:33	文藝的な餘りに文藝的な (二十)
18)	2. 4. 1	杜甫	前出塞	9:14	文藝的な餘りに文藝的な(五)
19)	2. 4. 1	夏目[漱石]先生	“散文”	9:16	文藝的な餘りに文藝的な(六)
20)	2. 4. 1	夏目[漱石]先生	行人	9:29	文藝的な餘りに文藝的な (十七, 夏目先生)
21)	2. 4. 1	[夏目漱石]先生	それから	9:14	文藝的な餘りに文藝的な(五)
22)	2. 4. 1	夏目[漱石]先生	それから	9:29	文藝的な餘りに文藝的な (十七)
23)	2. 4. 1	夏目[漱石]先生	道草	9:29	文藝的な餘りに文藝的な (十七)
24)	2. 4. 1	夏目[漱石]先生	明暗	9:29	文藝的な餘りに文藝的な (十七)
25)	2. 4. 1	夏目[漱石]先生	門	9:29	文藝的な餘りに文藝的な (十七)
26)	2. 4. 1	福永挽歌		9:22	文藝的な餘りに文藝的な (十一)
27)	2. 4. 1	正岡子規	“寫生文”	9:16	文藝的な餘りに文藝的な(六)
28)	2. 4. 1	正宗白鳥		9:7	文藝的な餘りに文藝的な(二)

注)

- 01) 施耐庵（生没年不詳）。中国明代の長編小説。中国「四大奇書」の1つ。
- 02) 白柳秀湖（前出）。「日本エッセイ叢書第4」として、人文会（大正15年）刊行。中に「僕の美學」「羞恥心に関する考察」等の小論文あり。目次タイトルは以下、「文藝的な餘りに文藝的な（十四）」と略す。
- 03) 「紅樓夢」は曹霑の作といわれている。中国・清の長編小説。
- 04) 高田浪吉（1898-1962）。
- 05) 高濱虚子（前出）。『國民新聞』（明治41年2月18日～7月28日）連載。民友社（明治42年）刊行。
- 06) 高山樗牛（1871-1902）。“現代を超越”：「無題録」（明治35年10月）中の語。目次タイトルは以下、「文藝的な餘りに文藝的な（十八）」と略す。
- 07) 谷崎潤一郎（前出）。“奇抜な話の上に立った多數の小説の作者”。
- 08) 戯曲。『改造』（大正10年2月）所載。
- 09) 第二次『新思潮』（明治43年12月）所載。
- 10) 『文藝春秋』（昭和2年1月）所載。正しくは「日本に於けるクリップン事件」。
- 11) 『新思潮』（明治43年11月）所載。
- 12) 『中外』（大正7年8月）所載、正しくは「小さな王國」。
- 13) 『中央公論』（大正6年1月）所載、正しくは「人魚の嘆き」。
- 14) 遅塚麗水（1868-1942）は紀行作家。
  
- 15) 陳森（生没年不詳）。
- 16) 徳田秋聲（1871-1943）。“自然主義の作家たちの中でも最も客観的な作家”。
- 17) 徳富蘇峰（1863-1957）。作品名は特定出来ず。
  
- 18) 杜甫（712-770）。9首から成る。引用の部分は第2のもの。
- 19) 夏目漱石（1867-1916）。
- 20) 『東京朝日新聞』『大阪朝日新聞』（大正1年12月6日～2年11月15日）連載。目次タイトルは以下、「文藝的な餘りに文藝的な（十七）」と略す。
- 21) 『東京朝日新聞』（明治42年6月27日～10月14日）連載。
- 22) （同上）。
  
- 23) 『東京朝日新聞』（大正4年6月3日～9月10日）連載。
  
- 24) 『東京朝日新聞』（大正5年5月26日～12月24日）連載、未完。
  
- 25) 『東京朝日新聞』（明治43年3月1日～6月12日）連載。
  
- 26) 福永挽歌（1886-1936）。短篇集「夜の海」がある。
  
- 27) 正岡子規（1867-1902）の写生文。作品名は特定出来ず。
- 28) 正宗白鳥（前出）。

## 昭和2年

01)	2. 4. 1	正宗白鳥		9:11	文藝的な餘りに文藝的な(五)
02)	2. 4. 1	正宗白鳥	死者生者	9:81	續文藝的な餘りに文藝的な (1, 「死者生者」)
03)	2. 4. 1	正宗〔白鳥〕	ダンテに就いて	9:20	文藝的な餘りに文藝的な(九)
04)	2. 4. 1	正宗白鳥	“作品を集めた本”	9:19	文藝的な餘りに文藝的な(九)
05)	2. 4. 1	正宗白鳥	文藝評論	9:28	文藝的な餘りに文藝的な (十五, 文藝評論)
06)	2. 4. 1	〔松尾〕芭蕉	奥の細道	9:17	文藝的な餘りに文藝的な (七, 詩人たちの散文)
07)	2. 4. 1	〔松尾〕芭蕉	〔去来抄〕	9:17	文藝的な餘りに文藝的な(七)
08)	2. 4. 1	源實朝	金槐集	9:22	文藝的な餘りに文藝的な (十一)
09)	2. 4. 1	武者小路實篤		9:12	文藝的な餘りに文藝的な(五)
10)	2. 4. 1	武者小路實篤		9:19	文藝的な餘りに文藝的な(九)
11)	2. 4. 1	武者小路實篤	“散文”	9:15	文藝的な餘りに文藝的な(六)
12)	2. 4. 1	〔紫式部〕	源氏物語	9:7	文藝的な餘りに文藝的な(二)
13)	2. 4. 1	室生犀星		9:16	文藝的な餘りに文藝的な(六)
14)	2. 4. 1	森〔鷗外〕先生	生田川	9:24	文藝的な餘りに文藝的な (十三, 森先生)
15)	2. 4. 1	森〔鷗外〕先生	鷗外全集 第6巻	9:24	文藝的な餘りに文藝的な (十三)
16)	2. 4. 1	森〔鷗外〕先生	澁江抽齋	9:25	文藝的な餘りに文藝的な (十三)
17)	2. 4. 1	森〔鷗外〕先生	玉篋二人浦島	9:24	文藝的な餘りに文藝的な (十三)
18)	2. 4. 1	山中未成		9:33	文藝的な餘りに文藝的な (二十)
19)	2. 4. 1	吉井勇	酒ほがひ	9:18	文藝的な餘りに文藝的な(八)
20)	2. 4. 1	〔劉文蔚〕	詩韻含英	8:400	春の夜は
21)	2. 4. 1	バルザック, [H. de]		9:8	文藝的な餘りに文藝的な(二)
22)	2. 4. 1	バレス, [M.]		9:6	文藝的な餘りに文藝的な(一)
23)	2. 4. 1	ボオドレエル, [C. P.]	“詩”	9:21	文藝的な餘りに文藝的な (十, 厭世主義)
24)	2. 4. 1	ボオドレエル, [C. P.]	地球の外へ!	9:84	続文藝的な餘りに文藝的な (5, 自然主義)
25)	2. 4. 1	ブランデス, [G.]		9:9	文藝的な餘りに文藝的な(二)
26)	2. 4. 1	〔ダンテ, A.]	神曲	9:23	文藝的な餘りに文藝的な (十二, 詩的精神)
27)	2. 4. 1	〔ダンテ, A.]	“我を過ぎて汝は 歎きの市に……”	9:19	文藝的な餘りに文藝的な(九)
28)	2. 4. 1	〔デフォー, D.]	“ロビンソン”	8:396	三つのなぜ



注)

- 01) 正宗白鳥を“厭世主義”と芥川は評している。
- 02) 『中央公論』（大正5年9月）所載。
- 03) 『中央公論』（昭和2年3月）所載。
- 04) “僕〔芥川〕は確か一昨年の夏、正宗氏の作品を集めた本を手當り次第に讀破して行った”。
- 05) 改造社（昭和2年1月）刊行。目次タイトルは以下、「文藝的な餘りに文藝的な(十五)」と略す。
- 06) 松尾芭蕉（1644-1694）。目次タイトルは以下、「文藝的な餘りに文藝的な（七）」と略す。
- 07) 芥川は“芭蕉は西鶴の文章を「淺ましくもなり下れる姿」と評した”と記す。「去来抄」の「故実」に「先師曰…西鶴が淺間しく下れる姿有」とある。
- 08) 源實朝（1192-1219）。「金槐和歌集」（1219頃）のこと。
- 09) 武者小路（前出）を“道德的天才”と芥川は評している。
- 10) 武者小路を“樂天主義”と芥川は評している。
- 11) 作品名は特定出来ず。
- 12) 紫式部（前出）。
- 13) 室生犀星（前出）。“詩人”としてあげている。
- 14) 森鷗外（前出）。『中央公論』（明治43年4月）所載の戯曲。目次タイトルは以下、「文藝的な餘りに文藝的な（十三）」と略す。
- 15) 鷗外全集刊行会（大正15年7月）刊行。韻文篇・史伝篇を収む。
- 16) 『東京日日新聞』『大阪毎日新聞』（大正5年1月3日～5月17日）連載。
- 17) 『歌舞伎』号外（明治35年12月）所載の戯曲。正しくは「玉篋兩浦島」。
- 18) 山中未成（1885-1966）、峯太郎のこと。“彼の書いた通信文さへ文藝的には現世に多い諸雑誌の雑文などに劣るものではない。”
- 19) 吉井勇（1886-1960）。昂発行所（明治43年9月）刊行の第1歌集。
- 20) 清の劉文蔚（生没年不詳）選、18巻。中国の韻書の1つ。韻書とは、韻で分類・排列した漢字の辞書。
- 21) Honoré de Balzac（1799-1850 フランス）。
- 22) Maurice Barres（1862-1923 フランス）。
- 23) Charles P. Baudelaire（1821-1867 フランス）。目次タイトルは以下、「文藝的な餘りに文藝的な(十)」と略す。
- 24) 「N'importe où hors du monde」（1867）。
- 25) George Brandes（1842-1927 デンマーク）は思想家。
- 26) Dante Alighieri（1265-1321 イタリア）。「La Divina Commedia」（1300-1321 に成る）。目次タイトルは以下、「文藝的な餘りに文藝的な(十二)」と略す。
- 27) “入り我を過ぎて汝は永遠の苦しみに入る”と続く。「神曲」の地獄篇にあり。
- 28) Daniel Defoe（1660?-1731 イギリス）。「Robinson Crusoe」（1719）の主人公。

## 昭和2年

01)	2. 4. 1	フロオベール, [G.]		9:9	文藝的な餘りに文藝的な(二)
02)	2. 4. 1	[フロベール, G.]	マダム・ボヴアリ イ	9:3	文藝的な餘りに文藝的な(一) 「話」らしい話のない小説
03)	2. 4. 1	[フロベール, G.]	マダム・ボヴアリ イ	9:23	文藝的な餘りに文藝的な (十二)
04)	2. 4. 1	フランス, A.		9:6	文藝的な餘りに文藝的な(一)
05)	2. 4. 1	フランス, A.		9:8	文藝的な餘りに文藝的な(二)
06)	2. 4. 1	フランス, F.		9:22	文藝的な餘りに文藝的な (十一)
07)	2. 4. 1	フランス, A.	赤い卵	9:83	続文藝的な餘りに文藝的な (4, アナトオル・フランス)
08)	2. 4. 1	フランス, A.	エピキュウルの園	9:83	続文藝的な餘りに文藝的な(4)
09)	2. 4. 1	フランス, A.	ジャン・ダアク	9:25	文藝的な餘りに文藝的な (十三)
10)	2. 4. 1	フランス, A.	白い石の上で	9:20	文藝的な餘りに文藝的な (十二)
11)	2. 4. 1	フランス, A.	ペンギンの島	9:83	続文藝的な餘りに文藝的な(4)
12)	2. 4. 1	ジツド, [A.]		9:6	文藝的な餘りに文藝的な(一)
13)	2. 4. 1	ジツド, [A.]	狭い門	9:10	文藝的な餘りに文藝的な(四) 大作家
14)	2. 4. 1	ゲエテ, [J. W. von]		9:10	文藝的な餘りに文藝的な(4)
15)	2. 4. 1	ゲーテ, [J. W. von]	ファウスト	8:391	三つのなぜ
16)	2. 4. 1	ゲエテ, [J. W. von]	「ハムレット」の 悲劇”	9:21	文藝的な餘りに文藝的な(三) (十一)
17)	2. 4. 1	Gsell, P.	アナトオル・フラ ンスとの對話	9:83	続文藝的な餘りに文藝的な(4)
18)	2. 4. 1	ハイネ, H.		9:9	文藝的な餘りに文藝的な(三)
19)	2. 4. 1	[ホメロス]	イリアッド	9:27	文藝的な餘りに文藝的な (十四)
20)	2. 4. 1	ルイズ, [M. G.]	僧	9:22	文藝的な餘りに文藝的な (十一)
21)	2. 4. 1	[ロンゴス]	ダフニとクロオと	9:3	文藝的な餘りに文藝的な(一)
22)	2. 4. 1	モオパスサン, [G. de]	ラルティスト	9:14	文藝的な餘りに文藝的な(五)
23)	2. 4. 1	メリメエ, [P.]		9:9	文藝的な餘りに文藝的な(二)
24)	2. 4. 1	メリメエ, [P.]	“戀愛書簡集”	9:30	文藝的な餘りに文藝的な (十八, メリメエの書簡集)
25)	2. 4. 1	フィリップ, [C.-L.]		9:6	文藝的な餘りに文藝的な(一)
26)	2. 4. 1	ルナアル, J.	フィリップ一家の 家風	9:5	文藝的な餘りに文藝的な(一)
27)	2. 4. 1	ラムボオ, [J. A.]		9:22	文藝的な餘りに文藝的な (十一)
28)	2. 4. 1	Segur, N.	アナトオル・フラ ンスとの對話	9:83	続文藝的な餘りに文藝的な(4)

注)

- 01) G. Flaubert (前出)。
- 02) 「Madame Bovary」(1851), 目次タイトルは以下, 「文藝的な餘りに文藝的な(一)」と略す。
- 03) (同上)。
- 04) Anatole France (1844-1924 フランス))。
- 05) “バルザック, スタンダール, サンドは名文家ではなかったと云ふアナトール・フランスの言葉”。
- 06) [A. France は] “ラムボオを啜う”。
- 07) 「バルタザール」(1889)の中に収録された短篇「L'Oeuf rouge」。目次タイトルは以下, 「続文藝的な餘りに文藝的な(4)」と略す。
- 08) 感想集。「Le Jardin d'Epicure」(1894)。
- 09) 「Jeanne d'Arc」(1908)。
- 10) 「La Pierre Blanche」(1905)。
- 11) 「L' Ile des Pingouins」(1908)。「ペンギンの島」。
- 12) André Gide (1869-1951 フランス)。
- 13) 「狭き門」。「La Porte étroite」(1909)。目次タイトルは以下, 「文藝的な餘りに文藝的な(四)」と略す。
- 14) J. W. von Goethe (前出)。“古今の大詩人”と評している。
- 15) ドイツのファウスト伝説に取材したゲーテの詩劇「Faust」の主人公。
- 16) 「限りのないシェイクスピア」(1826)のことか?
- 17) Paul Gsell (1870-? フランス)。「Propos recuillis d'Anatole France」(1921)。「アナトール・フランス語録」。
- 18) Heinrich Heine (1797-1856 ドイツ)。
- 19) Homeros (前800頃)。ギリシアの長篇叙事詩, ホメロスの作と言われている。「I liad」。
- 20) Matthew G. Lewis (1775-1818 イギリス)。「Monk」(1796)。
- 21) Longos (3世紀頃ギリシア)の作といわれている。「Taperi Daphnin Kai Chloen」。3世紀頃作られたギリシアの変愛小説。
- 22) Guy de Maupassant (1850-1893 フランス)。「L'artiste」(「芸術家」)。
- 23) Prosper Mérimée (1803-1870 フランス)。“唯一のラルティスト”。
- 24) 死後発表された。女性にあてたのが多い。
- 25) Charles-Louis Philippe (1874-1909 フランス)。
- 26) J. Renard (前出)。春陽堂(大正13年4月)刊行の岸田國士訳「葡萄畑の葡萄作り」の中にある。
- 27) Jean Arthur Rimbaud (1854-1891 フランス)。
- 28) N. Segur (前出)。「Derivese conversation avec Anatole France」(1927)。

昭和2年				
01)	2. 4. 1	サンド, [G.]	9:8	文藝的な餘りに文藝的な(二)
02)	2. 4. 1	シェイクスピア, あらし [W.]	9:32	文藝的な餘りに文藝的な (十九, 古典)
03)	2. 4. 1	[シェイクスピア, W.] ハムレット	9:21	文藝的な餘りに文藝的な (十一)
04)	2. 4. 1	[シェイクスピア, W.] ハムレット	9:23	文藝的な餘りに文藝的な (十二)
05)	2. 4. 1	スタンダール	9:8	文藝的な餘りに文藝的な(二)
06)	2. 4. 1	[スタンダール] 赤と黒と	9:3	文藝的な餘りに文藝的な(一)
07)	2. 4. 1	[スウィフト, J.] ガリヴァアの旅行 記	9:23	文藝的な餘りに文藝的な (十二)
08)	2. 4. 1	[トルストイ, L. N.] 戦争と平和と	9:3	文藝的な餘りに文藝的な(一)
09)	2. 4. 1	Turgenev, I. S.	9:9	文藝的な餘りに文藝的な(二)
10)	2. 4. 1	ヴィヨン, F.	9:21	文藝的な餘りに文藝的な (十一)
11)	2. 4. 1	ウェルズ, [H. G.]	9:23	文藝的な餘りに文藝的な (十二)
12)	2. 4. 3	[稲垣足穂]	11:508	書簡(稲垣足穂宛)
13)	2. 4. 3	吉田泰司	11:507	書簡(吉田泰司宛)
14)	2. 4. 4	和田久太郎	8:440	獄中の俳人
15)	2. 4.10		11:509	書簡(飯田蛇笏宛)
16)	2. 4.30		8:451	今昔物語鑑賞
17)	2. 4.30		8:451	今昔物語鑑賞
18)	2. 4.30		8:446	今昔物語鑑賞
19)	2. 4.30	[玄奘]	8:448	今昔物語鑑賞
20)	2. 4.30	[釈道世]	8:448	今昔物語鑑賞
21)	2. 4.30		8:448	今昔物語鑑賞
22)	2. 5?	正岡子規	8:485	夏目先生
23)	2. 5.	Bacon, [F.]	12:418	ポオの一面
24)	2. 5.	Baudelaire, [C. P.]	12:417	ポオの一面
25)	2. 5.	Baudelaire, [C. P.]	12:420	ポオの一面
26)	2. 5.	Bierce, [A. G.]	12:419	ポオの一面
27)	2. 5.	Bryant, [W. C.]	12:416	ポオの一面
28)	2. 5.	Channing, [W. E.]	12:416	ポオの一面

注)

- 01) George Sand (1804-1876 フランス)。
- 02) William Shakespeare (1564-1616 イギリス)。「Tempest」(1611)。
- 03) 「Hamlet」(1601頃)。
- 04) 「Hamlet」(同上)。
- 05) Stendhal (1783-1842 フランス)。“スタンダールの文章”。
- 06) 「Le Rouge et le Noir」(1830)。
- 07) J. Swift (前出)。「Gulliver's Travel」(1726)。
- 08) L. N. Tolstoi (前出)。「Война и мир」(1868-1869)。
- 09) I. S. Turgenev (前出)。“大いなる友よ、汝は汝の道にかへれ”。ツルゲーネフがトルストイに与えた語。
- 10) François Uillon (1431-? フランス)。“藝術家として成功、人として失敗”。
- 11) Herbert G. Wells (1866-1946 イギリス)。“短篇などは二三日のうちに書いてしまふ”。
- 12) 稲垣足穂 (1900-1977)。金星堂 (昭和2年3月) 刊行の「第三半球物語」のことか?
- 13) 吉田泰司 (不詳) は白樺派の批評家。“……の中にあなたの批評だけ僕を動かしました”と続く。
- 14) 和田久太郎 (前出)。
- 15) 飯田蛇笏 (1885-1962) 主宰の俳句雑誌。大正6年12月から現在に至る。
- 16) 「大鏡」平安後期の歴史物語。作者不詳。
- 17) 「源氏物語」(前出)。
- 18) 「今昔物語」平安後期成立の説話物語。
- 19) 玄奘 (602-664) は唐の僧。三蔵法師のインド西域地方旅行記, 12巻。
- 20) 釈道世 (生没年不詳) 撰, 668年成立。仏教の故実を集めたもので, 仏典の訓話を知るのに便利。100巻か?
- 21) 「ジャータカ」。古代の仏教説話集。約550の物語から成る。
- 22) 正岡子規 (前出)。『日本新聞』(明治34年1月6日~7月2日) 連載。
- 23) Francis Bacon (1561-1626 イギリス)。
- 24) C. P. Baudelaire (前出)。ポーを崇拜し, その作品を仏訳した。
- 25) 作品は特定出来ず。
- 26) Ambrose G. Bierce (1842-1914? アメリカ)。
- 27) William Cullen Bryant (1794-1878 アメリカ)。
- 28) William Ellery Channing (1780-1842 アメリカ) は牧師・著述家。

## 昭和2年

01)	2. 5.	Cooper, [J. F.]		12 : 416	ポオの一面
02)	2. 5.	[Defoe, D.]	Robinson C.	12 : 417	ポオの一面
03)	2. 5.	Dickens, [C.]		12 : 420	ポオの一面
04)	2. 5.	[Dickens, C.]	Barnaby Rudge	12 : 419	ポオの一面
05)	2. 5.	Emerson, [R. W.]		12 : 416	ポオの一面
06)	2. 5.	France, [A.]		12 : 416	ポオの一面
07)	2. 5.	[France, A.]	La Vie Litté- raire	12 : 416	ポオの一面
08)	2. 5.	Griswold, R.		12 : 415	ポオの一面
09)	2. 5.	Hawthorne, [N.]		12 : 416	ポオの一面
10)	2. 5.	Horne, [R. H.]	Or ion	12 : 416	ポオの一面
11)	2. 5.	Irving, [W.]		12 : 416	ポオの一面
12)	2. 5.	James, H.		12 : 420	ポオの一面
13)	2. 5.	Longfellow, [H. W.]		12 : 416	ポオの一面
14)	2. 5.	Longfellow, [H. W.]	The Beleague- red City	12 : 418	ポオの一面
15)	2. 5.	Lowell, [J. R.]	“Lowell ノ評語”	12 : 416	ポオの一面
16)	2. 5.	Mallarmé, [S.]		12 : 420	ポオの一面
17)	2. 5.	Pagne, W. M.	“W. M. Pagne ノ評語”	12 : 416	ポオの一面
18)	2. 5.	Poe, [E. A.]		12 : 415	ポオの一面 -421
19)	2. 5.	[Poe, E. A.]	Adventures of Arthur Gordon Pym	12 : 419	ポオの一面
20)	2. 5.	[Poe, E. A.]	Annabel Lee	12 : 419	ポオの一面
21)	2. 5.	[Poe, E. A.]	The authors of America	12 : 420	ポオの一面
22)	2. 5.	[Poe, E. A.]	The bells	12 : 420	ポオの一面
23)	2. 5.	[Poe, E. A.]	The black cat	12 : 420	ポオの一面
24)	2. 5.	[Poe, E. A.]	Critical History of American Literature	12 : 420	ポオの一面
25)	2. 5.	[Poe, E. A.]	Descent into the Maelstrom	12 : 419	ポオの一面
26)	2. 5.	[Poe, E. A.]	The Fact in the Case of M. Valdemar	12 : 419	ポオの一面
27)	2. 5.	[Poe, E. A.]	The Haunted Palace	12 : 418	ポオの一面
82)	2. 5.	[Poe, E. A.]	“Hawthorne 論”	12 : 418	ポオの一面

注)

- 01) James Fenimore Cooper (1789-1851 アメリカ)。
- 02) D. Defoe (前出) の「ロビンソン・クルーソー漂流記」。「Robinson Crusoe」(1719)。
- 03) Charles Dickens (1812-1870 イギリス)。
- 04) 「Barraby Rudge」(1841) は歴史小説。
- 05) Ralph Waldo Emerson (1803-1882 アメリカ)。
- 06) A. France (前出)。
- 07) 小品集 (1888)。邦訳タイトルは「文学生活」が一般的。
  
- 08) Rufus Griswold (1815-1857 アメリカ) は、ポーの評伝作者。
- 09) Nathaniel Hawthorne (1804-1864 アメリカ)。
- 10) Richard Henry Horne (1803-1884 イギリス)。叙事詩「オリオン」(1843) は Horne の代表作。
- 11) Washington Irving (1783-1859 アメリカ)。
- 12) Henry James (1843-1916 アメリカ)。
- 13) Henry W. Longfellow (1807-1882 アメリカ)。
- 14) Longfellow の1839年作の詩。
  
- 15) James Russel Lowell (1819-1891 アメリカ)。
- 16) Stéphane Mallarmé (1842-1898 フランス)。
- 17) William Morton Pagne (1858-1919 アメリカ)。「A Literary Crit」のことか？
  
- 18) Edgar A. Poe (1809-1849 アメリカ)。昭和2年5月に新潟高等学校、その他で芥川は「ポオの一面」として講演している。その講演の草稿。
- 19) E. A. Poe の小説, The narrative of Arthur Gordon Pym of Nantuket (1838)。
  
- 20) E. A. Poe の詩 (1849)。死後 (1849年) 出版。
- 21) E. A. Poe の評論。1844年より執筆, 未完。
  
- 22) E. A. Poe の詩 (1849)。
- 23) E. A. Poe の代表的な短篇小説, 「黒猫」(1843)。
- 24) E. A. Poe の評論。1844年より執筆, 未完。
  
- 25) E. A. Poe の短篇怪奇小説 (1841)。「大渦巻に吞まれて」。
  
- 26) E. A. Poe の短篇小説 (1845)。
  
- 27) E. A. Poe の詩 (1839)。
  
- 28) 「The review of Nathaniel Hawthorne's Twice-Toled Tales」(1842) のことか？

昭和2年					
01)	2. 5.	[Poe, E. A.]	The imp of per-verse	12 : 419	ポオの一面
02)	2. 5.	[Poe, E. A.]	The Journal of Julius Rodman	12 : 419	ポオの一面
03)	2. 5.	[Poe, E. A.]	Marginalia	12 : 418	ポオの一面
04)	2. 5.	[Pod, E. A.]	Philosophy of Composition	12 : 416	ポオの一面
05)	2. 5.	[Poe, E. A.]	The Pit and [the] Pendulum	12 : 419	ポオの一面
06)	2. 5.	[Pod, E. A.]	Poetic Principle	12 : 416	ポオの一面
07)	2. 5.	[Poe, E. A.]	Raven	12 : 417	ポオの一面
08)	2. 5.	[Pod, E. A.]	The Tell-tale Heart	12 : 419	ポオの一面
09)	2. 5.	[Pod, E. A.]	To Helen	12 : 419	ポオの一面
10)	2. 5.	[Poe, E. A.]	Ulalume	12 : 419	ポオの一面
11)	2. 5.	Smith, A.		12 : 418	ポオの一面
12)	2. 5.	Spielhagen, [F.]		12 : 420	ポオの一面
13)	2. 5.	Stedman, E.		12 : 416	ポオの一面
14)	2. 5.	Whitman, W.	Democratic Uis-tas	12 : 421	ポオの一面
15)	2. 5.	Whittier, [J. W.]		12 : 416	ポオの一面
16)	2. 5.	Woodberry, [G. E.]		12 : 416	ポオの一面
17)	2. 5. 1		末摘花	9 : 43	文藝的な餘りに文藝的な (二十五, 川柳)
18)	2. 5. 1		“アポリネエルたちの連作體の詩”	9 : 45	文藝的な餘りに文藝的な (二十六, 詩形)
19)	2. 5. 1	石川啄木		9 : 48	文藝的な餘りに文藝的な (二十八, 國木田獨歩)
20)	2. 5. 1	伊藤左千夫	“「叫び」の歌”	8 : 469	「道芝」の序
21)	2. 5. 1	[井原]西鶴		9 : 36	文藝的な餘りに文藝的な (二十二, 近松門左衛門)
22)	2. 5. 1	上田敏	“ダンテの研究…”	9 : 34	文藝的な餘りに文藝的な (二十一, 正宗白鳥氏の「ダンテ」)
23)	2. 5. 1	國木田獨歩	畫の悲しみ	9 : 49	文藝的な餘りに文藝的な (二十八)
24)	2. 5. 1	國木田獨歩	高峰の雲よ	9 : 49	文藝的な餘りに文藝的な (二十八)
25)	2. 5. 1	國木田獨歩	沙漠の雨	9 : 50	文藝的な餘りに文藝的な (二十八)
26)	2. 5. 1	國木田獨歩	山林に自由存す	9 : 49	文藝的な餘りに文藝的な (二十八)
27)	2. 5. 1	國木田獨歩	鹿狩り	9 : 50	文藝的な餘りに文藝的な (二十八)
28)	2. 5. 1	國木田獨歩	巡查	9 : 48	文藝的な餘りに文藝的な (二十八)



注)

- 01) E. A. Poe の短篇小説 (1845)。
- 02) E. A. Poe の小説 (1840)。
- 03) E. A. Poe。1844年から1849年まで数種の雑誌に発表したポーのエッセイ。
- 04) E. A. Poe のエッセイ「詩作の哲学」(1846)。“異色アル論文ナリ”。
- 05) E. A. Poe の短篇怪奇小説 (1843)。
- 06) E. A. Poe の詩論「詩の原理」(1869)。
- 07) E. A. Poe の詩「大鴉」(1845)。
- 08) E. A. Poe の短篇小説 (1843)。
- 09) E. A. Poe の詩 (1848)。
- 10) E. A. Poe の詩 (1847)。
- 11) Alphonso Smith (1864-1924 アメリカ)。
- 12) Friedrich Spielhagen (1829-1911 ドイツ)。
- 13) Edmund C. Stedman (1833-1908 アメリカ)。Woodberry との共著で「The works of Edgar Allan Poe」(1927) がある。
- 14) W. Whitman (前出) の評論。「民主主義展望」(1871)。
- 15) John Greenleaf Whittier (1807-1892 アメリカ)。
- 16) George Edward Woodberry (1855-1930 アメリカ)。Stedman との共著で「The works of Edgar Allan Poe」(1927) がある。
- 17) 「俳風末摘花」。川柳集, 4編4冊 (1776-1801)。目次タイトルは以下, 「文藝的な餘りに文藝的な (二十五)」と略す。
- 18) Guillaume Apollinaire de Kostrowitsky (1880-1918 フランス)。「Le Bestiaire」(「動物詩集」) などがある。目次タイトルは以下「文藝的な餘りに文藝的な (二十六)」と略す。
- 19) 石川啄木 (前出)。目次タイトル以下は, 「文藝的な餘りに文藝的な (二十八)」と略す。
- 20) 伊藤左千夫 (1864-1913)。作品名は特定出来ず。
- 21) 井原西鶴 (前出)。“寫實主義者”。目次タイトルは以下, 「文藝的な餘りに文藝的な (二十二)」と略す。
- 22) 上田敏 (1874-1916)。“ダンテの研究家の一人”と記している。上田には金港堂 (明治34年12月) 刊行「詩聖ダンテ」がある。目次タイトルは以下「文藝的な餘りに文藝的な (二十一)」と略す。
- 23) 國木田獨歩 (前出)。『青年界』(明治35年8月) 所載。
- 24) 東雲堂 (大正2年11月) 刊行「獨歩詩集」所収。
- 25) 散文。『讀賣新聞』(明治41年1月5日) 所載。
- 26) 民友社 (明治30年4月) 刊行『抒情詩』の中の「獨歩吟」の1篇。
- 27) 『家庭雑誌』(明治31年8月) 所載。
- 28) 『小柴舟』(明治35年2月) 所載。

## 昭和2年

01)	2. 5. 1	國木田獨歩	正直者	9: 48	文藝的な餘りに文藝的な (二十八)
02)	2. 5. 1	國木田獨歩	少年の悲哀	9: 49	文藝的な餘りに文藝的な (二十八)
03)	2. 5. 1	國木田獨歩	竹の木戸	9: 48	文藝的な餘りに文藝的な (二十八)
04)	2. 5. 1	國木田獨歩	非凡なる凡人	9: 48	文藝的な餘りに文藝的な (二十八)
05)	2. 5. 1	國木田獨歩	病牀録	9: 50	文藝的な餘りに文藝的な (二十八)
06)	2. 5. 1	國木田獨歩	武蔵野	9: 49	文藝的な餘りに文藝的な (二十八)
07)	2. 5. 1	久保田万太郎	道芝	8: 467	「道芝」の序
08)	2. 5. 1	小島政二郎	“川柳の中の官能的描寫”	9: 43	文藝的な餘りに文藝的な (二十五)
09)	2. 5. 1	島崎藤村		9: 49	文藝的な餘りに文藝的な (二十八)
10)	2. 5. 1	[高山樗牛]	“近松の世話もの……[の研究]”	9: 38	文藝的な餘りに文藝的な (二十二)
11)	2. 5. 1	田山花袋		9: 49	文藝的な餘りに文藝的な (二十八)
12)	2. 5. 1	近松門左衛門		9: 36	文藝的な餘りに文藝的な (二十二)
13)	2. 5. 1	近松[門左衛門]	國姓爺合戦	9: 38	文藝的な餘りに文藝的な (二十二)
14)	2. 5. 1	近松門左衛門	小春治兵衛	9: 37	文藝的な餘りに文藝的な (二十二)
15)	2. 5. 1	[近松門左衛門]	日本振袖始	9: 38	文藝的な餘りに文藝的な (二十二)
16)	2. 5. 1	徳富蘆花	自然と人生	9: 49	文藝的な餘りに文藝的な (二十八)
17)	2. 5. 1	[杜甫]	“李白一斗詩百篇”	9: 40	文藝的な餘りに文藝的な (二十三, 模倣)
18)	2. 5. 1	中村星湖	“初期の作品”	9: 50	文藝的な餘りに文藝的な (二十八)
19)	2. 5. 1	福士幸次郎		8: 467	「道芝」の序
20)	2. 5. 1	二葉亭四迷		9: 48	文藝的な餘りに文藝的な (二十八)
21)	2. 5. 1	正宗白鳥	“ダンテ論”	9: 34	文藝的な餘りに文藝的な (二十一)
22)	2. 5. 1	横井也有	鶉衣	9: 43	文藝的な餘りに文藝的な (二十五)
23)	2. 5. 1	吉江孤雁	“小品集”	9: 50	文藝的な餘りに文藝的な (二十八)
24)	2. 5. 1	Alcook, Sir Rutherford		9: 40	文藝的な餘りに文藝的な (二十三)
25)	2. 5. 1	[Baudelaire, C. P.]	悪の華	8: 466	僕の友だち二三人
26)	2. 5. 1	バットラア, S.		9: 41	文藝的な餘りに文藝的な (二十四, 代作の辯護)
27)	2. 5. 1	カアライル, [T.]	“英雄論”	9: 49	文藝的な餘りに文藝的な (二十八)
28)	2. 5. 1	ケエリイ, [H. F.]		9: 34	文藝的な餘りに文藝的な (二十一)

注)

- 01) 『新著文藝』 (明治36年10月) 所載。
- 02) 『小天地』 (明治35年8月) 所載。
- 03) 『中央公論』 (明治41年1月) 所載。
- 04) 『中學世界』 (明治36年3月) 所載。
- 05) 談話筆記。獨歩の死 (明治41年6月23日) 後, 新潮社 (明治41年7月) 刊行。
- 06) 第1短篇集。民友社 (明治34年3月) 刊行。
- 07) 久保田万太郎 (前出)。「句集道芝」。俳書堂号友善堂 (昭和2年5月20日) 刊行。
- 08) 小島政二郎 (1894-1994)。隨筆集「場末風流」 (昭和4年12月刊行) にあり。ただしこの本は芥川の死後に刊行されている。何かの雑誌に先に載ったか?
- 09) 島崎藤村 (1872-1943)。
- 10) 高山樗牛 (前出)。樗牛は東大在学中に近松論を「帝國文學」「太陽」に発表している。
- 11) 田山花袋を“理想主義者”と芥川は評している。
- 12) 近松門左衛門 (1653-1724)。
- 13) 近松門左衛門の時代物浄瑠璃 (正徳5年初演) (1715)。
- 14) 近松門左衛門「心中天網島」の主人公, 小春と紙屋治兵衛。
- 15) 近松門左衛門の時代物浄瑠璃 (享保3年初演) (1718)。
- 16) 徳富蘆花 (前出)。民友社 (明治33年8月) 刊行の小品集。
- 17) 杜甫 (前出) の詩「飲中八仙歌」の起句。目次タイトルは以下「文藝的な餘りに文藝的な(二十三)」と略す。
- 18) 中村星湖 (1884-1974)。「半生」 (明治41年) 「星湖集」 (明治43年) などがある。
- 19) 福士幸次郎 (1889-1946)。福士を“詩人兼批評家”と芥川は評している。
- 20) 二葉亭四迷 (1864-1909)。
- 21) 正宗白鳥 (前出)。「中央公論」 (昭和2年3月) 所載の「ダンテに就いて」。
- 22) 横井也有 (1702-1783)。俳文集 (1787-1823刊行), 12冊本。
- 23) 吉江孤雁 (1880-1940)。「緑雲」 (明治42年3月), 「高原」 (明治42年11月) 「旅より旅へ」 (明治42年7月) 等を指す。
- 24) Sir Rutherford Alcock (1809-1897 イギリス) は外交官。
- 25) C. P. Baudelaire (前出) の詩集「Les Fleurs du Mal」 (1857)。“作者の25歳(?) の時だった”としているが, 実際は36歳の時の作である。
- 26) S. Butler。“「古代の畫家は少かならず傑出した弟子を持ってゐるが近代の畫家は持ってゐない。…」一かう云うサミュエル・バトラアの言葉…」。目次タイトルは以下「文藝的な餘りに文藝的な(二十四)」と略す。
- 27) T. Carlyle (1795-1881)。「On heroes hero-worship」 (1841) のことか。
- 28) Henry Francis Cary (1772-1884 イギリス)。ダンテの「神曲」を英語で完訳し, 1814年に自費出版した。

## 昭和2年

01)	2. 5. 1	クロオチェ, [B.]	ダンテ論	9:34	文藝的な餘りに文藝的な (二十一)
02)	2. 5. 1	ダンテ [A.]	神曲	9:34	文藝的な餘りに文藝的な (二十一)
03)	2. 5. 1	Duentzer, [J. H.]		9:35	文藝的な餘りに文藝的な (二十一)
04)	2. 5. 1	フロオベエル, [G.]	[書簡集]	9:42	文藝的な餘りに文藝的な (二十四)
05)	2. 5. 1	[フロベール, G.]	マダム・ボヴァリ イ	9:37	文藝的な餘りに文藝的な (二十二, 近松門左衛門)
06)	2. 5. 1	フロオベエル, [G.]	マダム・ボヴァリ イ	9:47	文藝的な餘りに文藝的な (二十七, プロレタリア文藝)
07)	2. 5. 1	[フォレスト, E.]	雪さん	9:39	文藝的な餘りに文藝的な (二十三)
08)	2. 5. 1	ゲエテ, [J. W. von]	“フリーデリケ”	9:35	文藝的な餘りに文藝的な (二十一)
09)	2. 5. 1	[Goethe, J. W. von]	ファウスト	9:43	文藝的な餘りに文藝的な (二十五)
10)	2. 5. 1	ゴルキイ, [M.]	“フランク・ハリ スとの問答”	9:45	文藝的な餘りに文藝的な (二十七)
11)	2. 5. 1	ハリス, F.	“ゴルキイとの問 答”	9:45	文藝的な餘りに文藝的な (二十七)
12)	2. 5. 1	ルツテル, [M.]		9:46	文藝的な餘りに文藝的な (二十七)
13)	2. 5. 1	フィリップ, [C.-L.]		9:48	文藝的な餘りに文藝的な (二十八)
14)	2. 5. 1	シェイクスピア, [W.]	マクベス	9:38	文藝的な餘りに文藝的な (二十二)
15)	2. 5. 1	ストリントペリイ, [J. A.]		9:35	文藝的な餘りに文藝的な (二十一)
16)	2. 5. 1	スウィンバアン, [A. C.]		9:45	文藝的な餘りに文藝的な (二十六)
17)	2. 5. 1	Tieck, [L.]		9:35	文藝的な餘りに文藝的な (二十一)
18)	2. 5. 1	トルストイ, [L. N.]		9:45	文藝的な餘りに文藝的な (二十七)
19)	2. 5. 1	ド・リイル・ラダン, [V.]	“ド・リイル・ラ ダンの言葉”	9:37	文藝的な餘りに文藝的な (二十二)
20)	2. 5. 3	ランケ	“小説”	9:169	晩春賣文日記
21)	2. 5. 4	宇野浩二	高天ヶ原	9:170	晩春賣文日記
22)	2. 5. 4	宮地嘉六	累	9:170	晩春賣文日記
23)	2. 5. 6-22		大東京繁昌記	9:119	本所兩國
24)	2. 5. 6	[宇野浩二]	“君の本”	11:511	書簡(宇野浩二宛)
25)	2. 5. 6	鴨長明	方丈記	9:122	本所兩國
26)	2. 5. 6	北原白秋	“江戸の横網鶯の 鳴く”	9:98	本所兩國
27)	2. 5. 6	齋藤茂吉		9:110	本所兩國
28)	2. 5. 6	齋藤緑雨		9:105	本所兩國

注)

- 01) Benedetto Croce (1866-1952 イタリア) は歴史家。
- 02) Dante Alighieri (前出)。
- 03) Johann Heinrich Duentzer (1814-1901 ドイツ)。“理想主義者”と芥川は評している。
- 04) G. Flaubert (前出)。“僕はこの頃フロオベールのモオパスサンを教へるのにどの位深切を盡したかを知った”この話はフローベルの書簡集にある。
- 05) 「ボヴァリー夫人」(1857)。目次タイトルは以下「文藝的な餘りに文藝的な(二十二)」と略す。
- 06) (同上)目次タイトルは以下「文藝的な餘りに文藝的な(二十七)」と略す。
- 07) 明治初期の在日オランダ人女性エレンフォレスト(不詳)の著。小説の形をとり日本を諷刺。“堀口九萬一氏の紹介した「雪さん」”。『女性』(昭和2年3月)所載。九萬一(1865-1945)は外交官。堀口大學の父。
- 08) J. W. von Goethe (前出)。「ゲッツ・ファン・ベルリヒンゲン」(1777)にマリーアーとして描かれている主人公名,ゲーテが学生時代に愛した牧師の娘。
- 09) 「Faust」(1774-1831)。劇詩。
- 10) M. Gorkii。“フランク・ハリスとの問答の中に「わたしはトルストイよりも禮儀を重んじてゐる。」…と正直に衷情を話してゐる。”とあるのを芥川は引用している。
- 11) Frank Harris (1856-1931 アメリカ)はアイルランド生まれでアメリカに帰化したジャーナリスト。
- 12) Martin Luther (1483-1546 ドイツ)は宗教改革者。
- 13) Charles-Louis Philippe (1874-1909 フランス)。
- 14) W. Shakespeare (前出)。「Macbeth」(1606年初演)。
- 15) J. A. Strindberg (前出)。
- 16) Algernon Charles Swinburne (1887-1909 イギリス)。
- 17) Ludwig Tieck (1773-1853 ドイツ)。
- 18) L. N. Tolstoi (前出)。
- 19) A. de Villiers de l'Isle-Adam (1838-1889 フランス)。
- 20) “ランケ”は Horst Lange (1904-1971 ドイツ)のことか?
- 21) 宇野浩二(前出)。短篇集。春秋社(昭和2年3月)刊行。
- 22) 宮地嘉六(1884-1958)。短篇集。『新潮』(大正15年11月)所載。「かさね」と読む。
- 23) 『東京日日新聞(夕刊)』に昭和2年3月より連載。当時の文化人が分担執筆。芥川は昭和2年5月6日~22日迄15回「本所兩國」の題で連載。「本所兩國」の日付(2.5.6-22)は以下、「2.5.6」とする。
- 24) 宇野浩二(前出)。新潮社(昭和2年8月)刊行の『我が日我が夢』のこと。
- 25) 鴨長明(1155-1216)。随筆(1212)。
- 26) 北原白秋(前出)。処女詩集「桐の花」(大正2年1月,東雲堂刊行)の「春愁」の中の一首。
- 27) 齋藤茂吉(前出)。“齋藤茂吉氏は何かの機会に「ものゝ行きとどまらめやも」と歌ひ上げた。”
- 28) 齋藤緑雨(1867-1904)。“諷刺詩人齋藤緑雨”と芥川は評している。

## 昭和2年

01)	2. 5. 6	[里見弴]	大道無門	11:511	書簡(里見弴宛)
02)	2. 5. 6	[載叔倫]	“沅湘日夜東に流れて去る”	9:99	本所兩國
03)	2. 5. 6	与謝蕪村	蕪村句集	9:105	本所兩國
04)	2. 5. 6	[劉向]	列仙傳	9:112	本所兩國
05)	2. 5. 6	[Turgenev, I. S.]	獵人日記(英訳)	9:96	本所兩國
06)	2. 5. 21	夏目漱石	草合せ	未稿421	夏目先生<メモ>
07)	2. 5. 21	夏目漱石	坑夫	未稿421	夏目先生<メモ>
08)	2. 5. 21	夏目漱石	彼岸過迄	未稿421	夏目先生<メモ>
09)	2. 5. 21	夏目漱石	坊ちゃん	未稿421	夏目先生<メモ>
10)	2. 5. 21	夏目漱石	明暗	未稿421	夏目先生<メモ>
11)	2. 5. 24		繁昌記13, 15回	11:514	書簡(小穴隆一宛)
12)	2. 5. 24		“精神病の本”	未稿430	談話新瀉での座談會
13)	2. 5. 24	菊池寛	屋上の狂人	未稿430	談話新瀉での座談會
14)	2. 5. 24	久米[正雄]	赤光	未稿426	談話新瀉での座談會
15)	2. 5. 24	島田清次郎	地上	未稿428	談話新瀉での座談會
16)	2. 6. 1		社會新聞	12:662	堺利彦・長谷川如是閑座談會
17)	2. 6. 1	宇野浩二	我が日我が夢	9:172	「我が日我が夢」の序
18)	2. 6. 1	北原白秋		9:64	文藝的な餘りに文藝的な (三十三, 「新感覚派」)
19)	2. 6. 1	齋藤緑雨		9:63	文藝的な餘りに文藝的な (三十二, 批評時代)
20)	2. 6. 1	佐藤春夫	“議論”	9:61	文藝的な餘りに文藝的な (三十二)
21)	2. 6. 1	佐藤春夫	西班牙犬の家	9:67	文藝的な餘りに文藝的な (三十三)
22)	2. 6. 1	志賀直哉		9:52	文藝的な餘りに文藝的な (二十九, 再び谷崎潤一郎氏に答ふ)
23)	2. 6. 1	谷崎潤一郎	饒舌録	9:50	文藝的な餘りに文藝的な (二十九)
24)	2. 6. 1	[沈芥舟]	芥舟學畫編	9:173	「我が日我が夢」の序
25)	2. 6. 1	長谷川如是閑	額の男	12:662	堺利彦・長谷川如是閑座談會
26)	2. 6. 1	秦豊吉		9:59	文藝的な餘りに文藝的な (三十一, 「西洋の呼び聲」)
27)	2. 6. 1	正宗白鳥	ダンテに就いて	9:62	文藝的な餘りに文藝的な (三十二)
28)	2. 6. 1	正宗白鳥	文藝評論	9:62	文餘的な藝りに文藝的な (三十二)

注)

- 01) 里見弴(前出)。『婦人公論』(大正15年1月~12月)連載。改造社(昭和2年3月)刊行。
- 02) 載叔倫(732-789)の七言絶句の転句。
  
- 03) 高井几董(1741-1789)編。芥川は“中學時代に讀んだ”。
- 04) 劉向(前77-前6)選, 2巻。中国古代の仙人70人を叙述したもの。
- 05) I. S. Turgenev(前出)。“中學を卒業する英譯を前に拾い讀みをした”。
- 06) 夏目漱石(前出)。春陽堂(明治41年9月)刊行。この中に「抗夫」等がある。
- 07) 春陽堂(明治41年9月)刊行の「草合せ」所収。
- 08) 『東京朝日新聞』『大阪朝日新聞』(明治45年1月2日~4月29日)連載。
- 09) 『ホトトギス』(明治39年4月)所載。
- 10) 『東京朝日新聞』(大正5年5月26日~12月14日)連載。
- 11) 「大東京繁昌記」。『東京日日新聞(夕刊)』(前出)。
- 12) この本, 特定出来ず。
- 13) 菊地寛(前出)。第4次『新思潮』(大正5年5月)所載の戯曲。
- 14) 久米正雄(前出)。『時事新報』に大正10年8月から連載された。
- 15) 島田清次郎(1899-1930)。新潮社(大正8年6月~11年1月)刊行, 4部作。
- 16) 片山潜(1859-1933)らが出していたものか?“千葉縣の八街の小作爭議などの應援をしてゐるのを讀んだ”。
- 17) 宇野浩二(前出)。新潮社(昭和2年8月)刊行。
- 18) 北原白秋(前出)。目次タイトルは以下, 「文藝的な餘りに文藝的な(三十三)」と略す。
  
- 19) 齋藤緑雨(前出)。目次タイトルは以下, 「文藝的な餘りに文藝的な(三十二)」と略す。
  
- 20) 佐藤春夫(前出)。『中央公論』(昭和2年5月)所載の議論「批評の渤興」。
  
- 21) 『星座』(大正6年1月)所載。
  
- 22) 志賀直哉(前出)。目次タイトルは以下, 「文藝的な餘りに文藝的な(二十九)」と略す。
  
- 23) 谷崎潤一郎(前出)。『改造』(昭和2年2月~12月)連載の随筆。ここでは5月号掲載文を指す。
- 24) 沈宗騫, 芥舟は号。画論, 4巻。
- 25) 長谷川如是閑(1875-1969)は評論家。『大阪朝日新聞』(明治42年8月2日~43年5月7日)連載。
- 26) 秦豊吉(1892-1956)。“ロココ時代の藝術に秦氏の西洋を見出してゐる”。目次タイトルは以下, 「文藝的な餘りに文藝的な(三十一)」と略す。
- 27) 正宗白鳥(前出)。『中央公論』(昭和2年3月)所載。
  
- 28) 改造社(昭和2年1月)刊行。

昭和2年					
01)	2. 6. 1	[松尾]芭蕉		9:64	文藝的な餘りに文藝的な (三十三)
02)	2. 6. 1	三宅幾三郎	“議論”	9:61	文藝的な餘りに文藝的な (三十二)
03)	2. 6. 1	紫式部	“日記”	9:53	文藝的な餘りに文藝的な (二十九)
04)	2. 6. 1	室生犀星		9:64	文藝的な餘りに文藝的な (三十三)
05)	2. 6. 1	森[鷗外]	鷗外全集 第3巻	9:63	文藝的な餘りに文藝的な (三十二)
06)	2. 6. 1	森[鷗外]	“詩歌”	9:56	文藝的な餘りに文藝的な (三十,「野性の呼び聲」)
07)	2. 6. 1	横光利一	[首]	9:65	文藝的な餘りに文藝的な (三十三)
08)	2. 6. 1	ボオドレエル, [C. P.]		9:52	文藝的な餘りに文藝的な (二十九, 再び谷崎潤一郎氏に答ふ)
09)	2. 6. 1	ボオドレエル, [C. P.]		9:58	文藝的な餘りに文藝的な (三十一)
10)	2. 6. 1	ボオドレエル, [C. P.]		9:62	文藝的な餘りに文藝的な (三十二)
11)	2. 6. 1	[Fance, A.]	エピキユウルの園	9:56	文藝的な餘りに文藝的な (三十)
12)	2. 6. 1	[Fance, A.]	タイイス	9:57	文藝的な餘りに文藝的な (三十)
13)	2. 6. 1	ゲエテ, [J. W. von]		9:52	文藝的な餘りに文藝的な (二十九)
14)	2. 6. 1	ハイネ, [H.]	流謫の神々	9:59	文藝的な餘りに文藝的な (三十一)
15)	2. 6. 1	ユウゴオ, [V.]		9:52	文藝的な餘りに文藝的な (二十九)
16)	2. 6. 1	ラッサアレ, [F.]		9:62	文藝的な餘りに文藝的な (三十二)
17)	2. 6. 1	メリメエ, [P.]	“彼の書簡集”	9:52	文藝的な餘りに文藝的な (二十九)
18)	2. 6. 1	[ニーチェ, F. W.]		9:60	文藝的な餘りに文藝的な (三十一)
19)	2. 6. 1	ラムボオ, [A.]		9:52	文藝的な餘りに文藝的な (二十九)
20)	2. 6. 1	ヴァレリ, P.	“詩”	9:58	文藝的な餘りに文藝的な (三十一)
21)	2. 6. 10	[柳田國男]	まひまひつぶろ	11:516	書簡(柳田國男宛)
22)	2. 6. 15	久保田万太郎	“しるこ”	9:182	しるこ
23)	2. 6. 24	[大岡龍男]	“高著”	11:518	書簡(大岡龍男宛)
24)	2. 7. 1		大久保武藏鐙	9:198	冬と手紙と
25)	2. 7. 1		三州奇談	12:669	柳田國男・尾佐竹猛座談會
26)	2. 7. 1		藻汐草	12:669	柳田國男・尾佐竹猛座談會
27)	2. 7. 1	近衛さん	具注歴	12:675	柳田國男・尾佐竹猛座談會
28)	2. 7. 1	[滝沢]馬琴	燕石棟志	12:672	柳田國男・尾佐竹猛座談會



注)

- 1) 松尾芭蕉（前出）。“文藝的にはいやが上にも新人にならうと努力をしてみた”。
- 02) 三宅幾三郎（1897-1941）。『文藝時代』（昭和2年5月）所載の議論「新聞批評時代の翹望」。
- 03) 紫式部（前出）。「紫式部日記」（1008-1010）のこと。
- 04) 室生犀星（前出）。“芭蕉は元祿時代の最大の新人だった”。
- 05) 森鷗外（前出）。國民圖書会社（大正14年5月）刊行。芸術論を収めている。
- 06) “森先生の詩歌に不満を洩らしたぼく…”。芥川の「文藝的な…(十三, 森先生)」を指す。目次タイトルは以下, 「文藝的な餘りに文藝的な (三十)」と略す。
- 07) [横光利一が] “藤澤恒夫氏の「馬は褐色の思想のやうに走って行った」と云ふ言葉を引き… [新感覚はについて] 説明した”とする。横光の一文は『辻馬車』3号（大正14年5月）所載の「首」の一節
- 08) C. P. Baudelaire（前出）。目次タイトルは以下, 「文藝的な餘りに文藝的な (二十九)」と略す。
- 09) “僕はポオル・ヴァレリを讀んだ時ポオドレエルの昔からいつも僕を動かしてゐたかう云ふ美しさに邂逅した。”と芥川は述べる。
- 10) “詩人は彼自身の中に批評家を持ってゐる。が、批評家は彼自身の中に詩人を持ってゐるとは限らない”とのボードレールの言を引用している。
- 11) A. France（前出）。「Le Jardin d'Epicure」（1894）。
- 12) 「Thais」（1890）。
- 13) J. W. von Goethe（前出）。
- 14) H. Heine（前出）。「Goetter im Exil」（1853）。
- 15) Victor Hugo（1802-1885 フランス）。作品は特定出来ず。
- 16) Ferdinand Lassalle（1825-1864 ドイツ）は社会主義者・哲学者。“我々の過去を咎めるよりも我々の情熱を諒とするであらう”と述べたとする。
- 17) P. Merimee（前出）。「Letters a une inconnue」（1873）, 「Correspondance inedite」（1896）らがあるが、特定できない。
- 18) “「ツァラトストラ」の詩人”と言っているのが、F. W. Nietzsche（前出）を指している。
- 19) Arthur Rimbaud（1854-1891 フランス）。
- 20) Paul Valery（1871-1945 フランス）。
- 21) 柳田國男（前出）。『人類學雜誌』42巻4～7号（昭和2年4月～7月）連載の一部分, むぎ刷り。
- 22) 久保田万太郎（前出）。“しるこのことを書いてゐるのを見”。『中央公論』（大正9年7月）所載「浅草の喰べもの」に「しるこ」について久保田は書いている。
- 23) 大岡龍男（1892-1972）は高浜虚子門下。天青堂（昭和2年6月）刊行の『不孝者』か。
- 24) 江戸時代に広く読まれた実録本, 作者不詳。
- 25) 不詳。
- 26) “仙臺あたりの人の書いた”ものとしている。
- 27) 断簡, 近衛家所領目録（享徳2年）か。
- 28) 滝沢馬琴（1767-1848）の随筆集, 文化8年（1811）。「えんせぎざっし」。“子供の時に見た”。

昭和2年					
01)	2. 7. 1	[柳田國男]	山の人生	12: 669	柳田國男・尾佐竹猛座談會
02)	2. 7. 1	クロボトキン, [P. A.]	相互扶助論	9: 203	冬と手紙と
03)	2. 7. 8		書物禮讚	11: 519	書簡(金九經宛)
04)	2. 7. 25	エトナのエムペドクレス		9: 279	或舊友へ送る手記
05)	2. 7. 25	クライスト, [H. von]		9: 278	或舊友へ送る手記
06)	2. 7. 25	マインレンデル, [P.]		9: 276	或舊友へ送る手記
07)	2. 7. 25	ラシイヌ, [J.]		9: 278	或舊友へ送る手記
08)	2. 7. 25	レニエ, [H. de]		9: 275	或舊友へ送る手記
09)	2. 8. 1		源氏物語	9: 74	文藝的な餘りに文藝的な (三十七 古典)
10)	2. 8. 1		万葉集	9: 74	文藝的な餘りに文藝的な (三十七)
11)	2. 8. 1	石川六樹園		9: 75	文藝的な餘りに文藝的な (三十七)
12)	2. 8. 1	[井原]西鶴	置土産	9: 223	續芭蕉雜記(二, 傳記)
13)	2. 8. 1	[広瀬]惟然	“秋晴れたあら鬼 貫の夕べやな”	9: 224	續芭蕉雜記(三, 芭蕉の衣鉢)
14)	2. 8. 1	正宗白鳥	光秀と紹巴	9: 72	文藝的な餘りに文藝的な (三十六, 人生の從軍記者)
15)	2. 8. 1	[松尾]芭蕉	“夏山に足駄を拜 む首途かな”	9: 222	續芭蕉雜記(一, 人)
16)	2. 8. 1	[松尾]芭蕉	“ひやひやと壁を ふまへて晝寐かな”	9: 221	續芭蕉雜記(一, 人)
17)	2. 8. 1	老子	“時々無何有の郷 に佛陀と……”	9: 255	西方の人(37, 東方の人)
18)	2. 8. 1	ビヤス, [A. G.]	“散文”	9: 75	文藝的な餘りに文藝的な (三十七)
19)	2. 8. 1	ベンネット, [A.]		9: 77	文藝的な餘りに文藝的な (三十八, 通俗小説)
20)	2. 8. 1	ビルコフ, [P. I.]	“ビルコフの傳記”	9: 70	文藝的な餘りに文藝的な (三十五, ヒステリイ)
21)	2. 8. 1	[Chateaubriand, F. -R. de]	ルネ	9: 69	文藝的な餘りに文藝的な (三十五)
22)	2. 8. 1	コクトオ, [J.]		9: 85	續文藝的な餘りに文藝的な (8, コクトオの言葉)
23)	2. 8. 1	ダンテ[A.]	[神曲]	9: 242	西方の人(20, エホバ)
24)	2. 8. 1	フランス, [F.]		9: 250	西方の人(30, ピラト)
25)	2. 8. 1	フランス, [F.]		9: 76	文藝的な餘りに文藝的な (三十七)
26)	2. 8. 1	ゲエテ, [J. W. von]		9: 254	西方の人(36, クリストの一 生)
27)	2. 8. 1	ゲエテ, [J. W. von]		9: 232	西方の人(3, 聖靈)
28)	2. 8. 1	ゲーテ, [J. W. von]	“ウエルテル”	9: 69	文藝的な餘りに文藝的な (三十五)

注)

- 01) 柳田國男 (前出)。民話をもとにした作品。郷土研究社 (大正15年11月) 刊行。
- 02) Pëtr A. Kropotkin (1842-1921 ロシア) は思想家。1902年作。
- 03) 特定できず。
- 04) Empedokles (B. C. 5 世紀ギリシャ) は哲学者。
- 05) Heinrich von Kleist (1777-1811 ドイツ)。“彼の自殺する前に度たび彼の友だちに (男の) 途づれになることを勧誘した”。
- 06) Philipp Mainländer (1841-1876 ドイツ) は哲学者。“抽象的な言葉に巧みに死に向ふ道程を描いてゐる”。
- 07) Jean Racine (1639-1699 フランス)。
- 08) Henri de Regnier (1864-1936 フランス)。“彼の短篇の中に或自殺者を描いてゐる”。“短篇”とは「Ronheuns peidus」(「失われたる幸福」) のことか?
- 09) 源氏物語 (前出)。目次タイトルは以下, 「文藝的な餘りに文藝的な (三十七)」と略す。
- 10) 歌集, 20巻。
- 11) 六樹園は石川雅望 (1753-1830 国学者) の別号。
- 12) 井原西鶴 (前出)。「西鶴置土産」(1693) が現代通用のタイトル。
- 13) 広瀬惟然 (?-1711)。芭蕉門下。
- 14) 正宗白鳥(前出)。「中央公論」(大正15年6月)所載。目次タイトルは以下, 「文藝的な餘りに文藝的な (三十六)」と略す。
- 15) 「奥の細道」中にある。
- 16) 斎部路通編著「芭蕉翁行状記」(1695) に出ている句。
- 17) 老子 (生没年不詳)。この部分は, 孔子に“礼”を教えた「老子道德経」の一部を指すか?
- 18) A. G. Bierce (前出)。作品名は特定出来ず。
- 19) Arnold Bennett (1867-1931 イギリス)。“彼は自分のポピュラア・ノヴェルに Fantasies の名を與へてゐる”。目次タイトルは以下, 「文藝的な餘りに文藝的な (三十八)」と略す。
- 20) P. I. Biriukov (1860-1931 ロシア)。「トルストイ伝」全4巻 (1922-1923)。大正6年3月新潮社より相馬御風の英訳から重訳が出た。目次タイトルは以下, 「文藝的な餘りに文藝的な (三十五)」と略す。
- 21) François-René de Chateaubriand (1768-1848 フランス)。「Rene」(1802)。
- 22) Jean Cocteau (1889-1963 フランス)。“「藝術は科學の肉化したものである」と云ふコクトオの言葉は中ってゐる”。
- 23) Dante Alighieri (前出)。“フランチェスカを地獄に墮した”と記す。フランチェスカは「神曲」に出てくる女性。
- 24) A. France (前出)。
- 25) A. France の言“後代へ飛んで行く為には身輕であることを条件とてゐる”(所出不詳)を記している。
- 26) J. W. von Goethe (前出) の言“徐ろに老いるよりもさっさと地獄へ行きたい”(所出不詳)を記している。
- 27) “ゲエテはいつも聖靈に Daemon の名を與えてゐた”と記している。所出不詳。
- 28) 「若きウェルテルの悩み」(1774) のこと。

## 昭和2年

01)	2. 8. 1	ゲエテ, [J. W. von]	タツソオ	9: 246	西方の人(26, 幼な兒の如く)
02)	2. 8. 1	グウルモン, [R. de]	“グウルモンの言葉”	9: 241	西方の人 (20, エホバ)
03)	2. 8. 1	ハイネ, [H.]	ドイツ・ロマン主義運動	9: 79	文藝的な餘りに文藝的な (四十, 文藝上の極北)
04)	2. 8. 1	ロムプロゾオ, [C.]		9: 232	西方の人 (3, 聖靈)
05)	2. 8. 1	ニイチエ, [F.]		9: 72	文藝的な餘りに文藝的な (三十六)
06)	2. 8. 1	ニイチエ, [F.]		9: 250	西方の人 (31, クリストよりもバラバを)
07)	2. 8. 1	ニイチエ, [F.]		9: 255	西方の人 (37, 東方の人)
08)	2. 8. 1	[Nietzsche, F.]	人間的な, 餘りに人間的な	9: 251	西方の人 (31)
09)	2. 8. 1	ニイチエ, [F.]	叛逆	9: 231	西方の人 (2, マリア)
10)	2. 8. 1	パピニ, [G.]		9: 249	西方の人 (29, ユダ)
11)	2. 8. 1	パスカル, [B.]		9: 254	西方の人 (35, 復活)
12)	2. 8. 1	ポオ, [E. A.]	“詩”	9: 75	文藝的な餘りに文藝的な (三十七)
13)	2. 8. 1	ルナン, [J. E.]		9: 253	西方の人 (35, 復活)
14)	2. 8. 1	バアナアド・ショウ	医者 of デイレンマ	9: 72	文藝的な餘りに文藝的な (三十六)
15)	2. 8. 1	ショウ, [G. B.]		9: 246	西方の人 (27, イエルサレムへ)
16)	2. 8. 1	ストリントベリイ, [J. A.]		9: 73	文藝的な餘りに文藝的な (三十六)
17)	2. 8. 1	ストリントベリイ, [J. A.]	青い本	9: 70	文藝的な餘りに文藝的な (三十五)
18)	2. 8. 1	ストリントベリイ, [J. A.]	女中の子	9: 234	西方の人 (10, 父)
19)	2. 8. 1	ストリントベリイ, [J. A.]	痴人の告白	9: 69	文藝的な餘りに文藝的な (三十五)
20)	2. 8. 1	ヴィヨン, [F.]	“抒情詩”	9: 72	文藝的な餘りに文藝的な (三十五)
21)	2. 8. 1	ヴィヨン, F.		9: 86	続文藝的な餘りに文藝的な (9, 「我若し王者たりせば」)
22)	2. 8. 1	ヴォルテエエル		9: 242	西方の人 (20, エホバ)
23)	2. 8. 1	ホキットマン, [W.]		9: 244	西方の人 (24, カナの饗宴)
24)	2. 8. 4	内田百閒	冥途	9: 273	内田百閒氏
25)	2. 8. 4	内田百閒	旅順開城	9: 273	内田百閒氏
26)	2. 9. 1	ポオドレエル, [C. P.]	悪の華	9: 298	十本の針 (4, 空中の花束)
27)	2. 9. 1	ポオドレエル, [C. P.]	“小さい散文詩”	9: 298	十本の針 (4, 空中の花束)
28)	2. 9. 1	ダアウィン, [C. R.]	“進化論”	9: 267	續西方の人 (16, サドカイの徒やパリサイの徒)

注)

- 01) 戯曲「Torquato Tasso」(1789) のこと。
- 02) Remy de Gourmont (1858-1915)。
- 03) H. Heine (前出)。「Romantische Schule」(1883) の第 1 巻を指す。目次タイトルは以下、  
「文藝的な餘りに文藝的な (四十)」と略す。
- 04) Cesare Lombroso (1836-1909 イタリア) は精神病理学者。
- 05) F. Nietzsche (前出)。“ニーチェの「超人」も一皮剥いて見れば實はこのマルスの轉身だっ  
た”と記す。
- 06) ニーチェの“後代のバラバたちを街頭の犬に比へたりした”との言を記している。所出不詳。  
目次タイトルは以下、「西方の人 (31)」と略す。
- 07) “ニーチェは宗教を「衛生學」と呼んだ”と記している。「この人を見よ」(「Ecce Homo」  
(1888)にあるか？
- 08) 「Menschliches, Allzumenschliches」(2部, 1878・1880) のこと。
- 09) 「Der Antichrist」(1888)。一般的な翻訳タイトル「反キリスト者」。
- 10) G. Papini (前出)。“[パピニは]ユダのクリストを賣ったのを大きい謎に敷へてゐる”。所出  
不詳。
- 11) B. Pascal。“パスカルの尊んだクリスト”と記している。『パンセ』(1656-57) に拠っている  
か。
- 12) E. A. Poe (前出)。“如何に長いにせよ、事實上短いものの寄せ集めばかりである。ポオは  
詩の上にこの事実に依った彼の原則を主張した”と記している。
- 13) Joseph Ernest Renan (1832-1892 フランス) は宗教史家・思想家。「イエス伝」(「La Vie  
de Jesus」(1863) の著者。
- 14) George B. Shaw (1856-1950 イギリス)。「The doctor's dilemma」(1906)。
- 15) “ショオは十字架に懸けられる爲にイエルサレムへ行ったクリストに雷に似た冷笑を與へてゐ  
る”。“The man of destiny” (1895) に拠っているか。
- 16) J. R. Strindberg (前出)。“「藝術家として」のストリントベリイは僕等の愛讀に價してゐる。  
しかし「人として」のストリントベリイは恐らくは僕の尊敬する批評家XYZ君よりもはるかに  
つき合い悪いことであろう”。
- 17) 「En bla bok」(1907-1912)。
- 18) 自伝小説「Tjaenstekvinnans son」(1886-1909)。全 4 巻。
- 19) 「Le Plaidoyer L'um fou」(1895)。
- 20) F. Viilon (前出)。この“詩”特定できず。
- 21) “抒情詩人フランソア・ヴィヨン”と評している。
- 22) Voltaire。“「神學」の神を殺す爲に彼の劍を揮つてゐる”と記している。「哲学書簡」「カンデ  
ィード」などにおけるヴォルテールのキリスト教教義への批判のことか。
- 23) W. Whitman (前出)。“彼の詩の中に度たびクリストを感ずるであらう”。
- 24) 内田百閒 (1889-1971)。第一創作集。稲門堂 (大正11年2月) 刊行。
- 25) 『女性』(大正14年7月) 所載の短篇小説。正確には「旅順入城式」。
- 26) C. P. Baudelaire (前出)。「Les Fleurs du mal」(1857)。
- 27) 「Le Spleen de Paris」。死後 (1869年) に「パリの憂愁」としてまとめられた。
- 28) Charles Robert Darwin (1809-1882 イギリス) は生物学者。「種の起源」(1859)。

昭和2年					
01)	2. 9. 1	ゴオギヤアン, [E. H. P.]	“手紙”	9: 286	闇中間答
02)	2. 9. 1	ゲエテ, [J. W. von]		9: 272	續西方の人 (22, 貧しい人たちに)
03)	2. 9. 1	ゲエテ, [J. W. von]	ファウスト	9: 266	續西方の人 (14, 孤身)
04)	2. 9. 1	イブセン, [H.]		9: 263	續西方の人 (10, ヨハネの言葉)
05)	2. 9. 1	[Rolland, R.]	[トルストイの生涯]	9: 266	續西方の人 (14, 孤身)
06)	2. 9. 1	ストリントベリイ, [J. A.]	痴人の懺悔	9: 285	闇中間答
07)	2. 9. 1	トルストイ, [L. N.]	“晩年の作品……”	9: 265	續西方の人 (12, 最大の矛盾)
08)	2. 9. 1	ワグネル, [R.]	“手紙”	9: 289	闇中間答
09)	2. 9. 1	ワイルド, [O.]		9: 291	闇中間答
10)	2. 9. 15	齋藤緑雨	“ナンダ, コンナ山, ナンダ, コンナ山”	9: 308	機関車を見ながら
11)	2. 9. 15	[近松門左衛門]	“小春治兵衛”	9: 306	機関車を見ながら
12)	2. 9. 15	フロオベエル, [G.]	“人は皆無, 仕事は全部”	9: 307	機関車を見ながら
13)	2. 9. 15	[Shakespeare. W.]	マクベス	9: 306	機関車を見ながら
14)	2. 10. 1		希臘神話	9: 139	歯車
15)	2. 10. 1	韓非子	韓非子	9: 140	歯車
16)	2. 10. 1	[志賀直哉]	暗夜行路	9: 144	歯車
17)	2. 10. 1	[島崎藤村]	新生	9: 334	或阿呆の一生 (四六, 謔)
18)	2. 10. 1	[島崎藤村]	新生	9: 344	侏儒の言葉 (遺稿) (「新生」讀後)
19)	2. 10. 1	[夏目漱石]	“(先生の) 本”	9: 316	或阿呆の一生 (十, 先生)
20)	2. 10. 1	ビュルコフ, [P. I.]	トルストイ傳	9: 344	侏儒の言葉 (遺稿) (トルストイ)
21)	2. 10. 1	[Dostoevskii. F. M.]	カラマゾフの兄弟	9: 159	歯車
22)	2. 10. 1	ドストエフスキイ, [F. M.]	罪と罰	9: 154	歯車
23)	2. 10. 1	[Flaubert, G.]	マダム・ボヴァリイ	9: 140	歯車
24)	2. 10. 1	フランス, [A.]	アナトール・フランス對話集	9: 147	歯車
25)	2. 10. 1	フランス, [A.]	“(アナトール・フランスの) 本”	9: 318	或阿呆の一生 (十六, 枕)
26)	2. 10. 1	ゲエテ, [J. W. von]		9: 340	侏儒の言葉(遺稿)(女人崇拜)
27)	2. 10. 1	[Goethe, J. W. von]	詩と眞實と	9: 336	或阿呆の一生 (四九, 剝製の白鳥)
28)	2. 10. 1	[Goethe, J. W. von]	Divan	9: 333	或阿呆の一生 (四五, Divan)

注)

- 01) Eugène H. P. Gauguin (1848-1903 フランス) は画家。この“手紙”については不詳。
- 02) “ゲエテは婉曲にクリストに對する彼の輕蔑を示してゐる”と記している。「ファウスト」(1775-1831) 所出か。
- 03) 「Faust」(1775-1831)。
- 04) H. Ibsen (前出)。
- 05) Romain Rolland (1866-1944 フランス)。“トルストイは彼は死ぬ時に「世界中に苦しんでゐる人々は澤山ある。それをなぜわたしばかり大騒ぎするのか？」と言った”。「トルストイの生涯」(「Vie de Tolstoi」)(1911) よりの引用。
- 06) J. A. Strindberg (前出) の告白小説。「Le plaidoyer d'un fou」(1893)。邦訳タイトル「痴人の告白」。
- 07) “トルストイの晩年の作品はこの古代の教訓主義的な作品〔キリストの言行録〕に最も近い文藝”と言う。“晩年の作品”とは「愛する所に神あり」「火を等閑にせば」「イワンの馬鹿」「復活」を指すであろう。
- 08) “ワグネルの手紙”と記している。Wilhelm Richard Wagner (前出) の手紙か。
- 09) Oscar Wilde (1854-1900 イギリス)。“「妄りに自殺するのは社會に負けるのだ」と言つてゐる”と記している。回想録「獄中記」(1905) の一節か。
- 10) 齋藤緑雨 (前出)。博文館(明治31年12月)刊行の随筆集「あられ酒」の中にある一節。
- 11) 近松門左衛門 (前出)。浄瑠璃「心中天網島」(1720年初演)の主人公の二人。
- 12) G. Flaubert (前出)。このことばは、モーパッサンに宛てた書簡集の中にある。
- 13) W. Shakespeare (前出)。「Macbeth」(1606)の主人公。
- 14) ギリシア神話。“子供の爲に書かれたもの……”。
- 15) 全20巻。
- 16) 「暗夜行路」(前出)。
- 17) 島崎藤村 (前出)。『東京朝日新聞』(前編：大正7年5月1日-10月5日、後編：大正8年4月27日-10月23日)連載。
- 18) 同上。
- 19 “先生”は夏目漱石(前出)を指す。
- 20) Pavel I. Biriukov (1860-1931 ロシア)。「トルストイ伝」全4巻(1922-1923)。
- 21) Fëdor M. Dostoevskii (1821-1881 ロシア)。「カラマーゾフの兄弟」(1879-1880)。
- 22) F. M. Dostoevskii 「罪と罰」(1866)。
- 23) G. Flaubert 「ボヴァリー夫人」(1857)。
- 24) A. France (前出)。Nicolas Segur 「Derivese Conversation avec Anatole France」(1927)と Paul Gasell 「Propos recuillis d'Anatole France」(1921)。
- 25) この“本”は特定できず。
- 26) J. W. von Goethe (前出)。“「永遠に女性なるもの」を崇拜した”。
- 27) J. W. von Goethe の自叙伝。「Dichtung und Wahrheit」(1811-1831)。
- 28) 「West-oestlicher Divan」(1819)。邦訳タイトル「西東詩集」。

## 昭和2年

- |     |       |   |                   |              |        |                            |
|-----|-------|---|-------------------|--------------|--------|----------------------------|
| 01) | 2.10. | 1 | [Gogol', N. V.]   | 検察官          | 9:337  | 或阿呆の一生(五十, 俘)              |
| 02) | 2.10. | 1 | メエテルリンク, [M.]     | 知慧と運命        | 9:341  | 侏儒の言葉(遺稿)(知徳合一)            |
| 03) | 2.10. | 1 | マインレンデル, [P.]     |              | 9:348  | 侏儒の言葉(遺稿)(死)               |
| 04) | 2.10. | 1 | メリメエ, [P.]        | 書簡集          | 9:147  | 齒車                         |
| 05) | 2.10. | 1 | モンテエヌ, [M. E. de] |              | 9:347  | 侏儒の言葉(遺稿)(自殺(又))           |
| 06) | 2.10. | 1 | ラディゲ, [R.]        | “ラディゲの臨終の言葉” | 9:337  | 或阿呆の一生(五十, 俘)              |
| 07) | 2.10. | 1 | ルツソオ, [J. J.]     | 懺悔録          | 9:334  | 或阿呆の一生(四六, 諷)              |
| 08) | 2.10. | 1 | ストリントベリイ, [J. A.] | 痴人の告白        | 9:323  | 或阿呆の一生<br>(二五, ストリントベリイ)   |
| 09) | 2.10. | 1 | ストリントベルグ, [J. A.] | 傳説           | 9:139  | 齒車                         |
| 10) | 2.10. | 1 | ストリントベリイ, [J. A.] | 傳説           | 9:345  | 侏儒の言葉(遺稿)<br>(ストリントベリイ(又)) |
| 11) | 2.10. | 1 | スウィフト, [J.]       |              | 9:334  | 或阿呆の一生(四六, 諷)              |
| 12) | 2.10. | 1 | スウィフト, [J.]       | “Yahoo の牝”   | 9:340  | 侏儒の言葉(遺稿)(女人崇拜)            |
| 13) | 2.10. | 1 | トルストイ, [L. N.]    | Polikouchka  | 9:133  | 齒車                         |
| 14) | 2.10. | 1 | トルストイ, [L. N.]    | わが懺悔         | 9:344  | 侏儒の言葉(遺稿)<br>(トルストイ)       |
| 15) | 2.10. | 1 | トルストイ, [L. N.]    | わが宗教         | 9:344  | 侏儒の言葉(遺稿)<br>(トルストイ)       |
| 16) | 2.10. | 1 | フランソア・ヴォヨン        |              | 9:334  | 或阿呆の一生(四六, 諷)              |
| 17) | 2.10. | 1 | ヴォルテエル            | カンディイド       | 9:319  | 或阿呆の一生<br>(十九, 人工の翼)       |
| 18) | 2.10. | 1 | ヴォルテエル            | Candide      | 9:340  | 侏儒の言葉(遺稿)(理性)              |
| 19) | 2.11. | 1 | 犬養[健]             | “(犬養君の)作品……” | 12:347 | 犬養君に就いて                    |
| 20) | 2.12. | 1 | 近松門左衛門            |              | 9:357  | 侏儒の言葉(遺稿)(民衆)              |
| 21) | 2.12. | 1 | 李太白               |              | 9:357  | 侏儒の言葉(遺稿)(民衆)              |
| 22) | 2.12. | 1 | ゲエテ, [J. W. von]  |              | 9:357  | 侏儒の言葉(遺稿)(民衆)              |
| 23) | 2.12. | 1 | シエクスピイア, [W.]     |              | 9:357  | 侏儒の言葉(遺稿)(民衆)              |

## 昭和3年

- |     |         |  |        |      |       |          |
|-----|---------|--|--------|------|-------|----------|
| 01) | 3. 1.10 |  | 室生[犀星] | 愛の詩集 | 9:466 | 詩歌「愛の詩集」 |
|-----|---------|--|--------|------|-------|----------|



注)

- 01) N. V. Gogol' の戯曲, 「Ревизор」(1836 上演)。
- 02) Mérimée Maeterlinck (前出) の随想録。「La sagesse et la destinee」(1898)。
- 03) Philipp Mainländer (1841-1876 ドイツ) は哲学者。“頗る正確に死の魅力を記述してゐる”と記している。所出不詳。
- 04) P. Mérimée (前出)。死後明らかにされた書簡を集めた。女性に出された手紙が多い。
- 05) Michel Eyquem de Montaigne (1533-1592 フランス) は思想家。“自殺に對するモンテエヌの辯護”。
- 06) Raymond Radiguet (1903-1923 フランス)。友人のジャン・コクトーがラディゲの「ドルジェル伯の舞踏会」の序文に書き記している。
- 07) Jean J. Rousseau (1712-1778 フランス)。「Les confessions」(1782-1789)。
- 08) J. A. Strindberg (前出)。「En dares försvarstal」(1893)。
  
- 09) 「Legender」(1898)。
  
- 10) 「傳説」(前出)
  
- 11) J. Swift (前出)。
- 12) 「ガリバー旅行記」に出てくる動物。
- 13) L. N. Tolstoi (前出)。「ポリクーンカ」(1863)。
- 14) 「Исповедь」(1879-1880)。
  
- 15) 1885年作。
  
- 16) François Villon (1431-? フランス)。
- 17) Voltaire (前出)。「Candide」(1759)。彼の代表的な小説。
  
- 18) Candide (前出)。
- 19) 犬養健 (1896-1961)。“犬養君の作品は大抵読んでゐるつもり”と記している。
  
- 20) 近松門左衛門 (前出)。
- 21) 李太白 (701-762)。
- 22) J. W. von Goethe (前出)。
- 23) W. Shakespeare (前出)。

昭和3年

01) 室生犀星(前出)。室生犀星から贈呈された「愛の詩集」への礼状としてそのタイトルを借りた文中詩をも記している。

本研究は、本学総合研究所共同研究 92 共 84 「芥川龍之介の読書書誌～比較文学研究」(1992～1994) の活動の一環である。またデータの採録では、深本健一郎・悦子、三浦整、山田伸枝氏のご協力を得た。更に文献利用では、大阪女子大学図書館・森田敏治事務長、帝塚山学院大学・柏田雅明図書課長に多大のご厚誼を頂戴した。深く感謝する。